

今曾路名所圖會 六

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

7



木曾路名所圖會卷之六

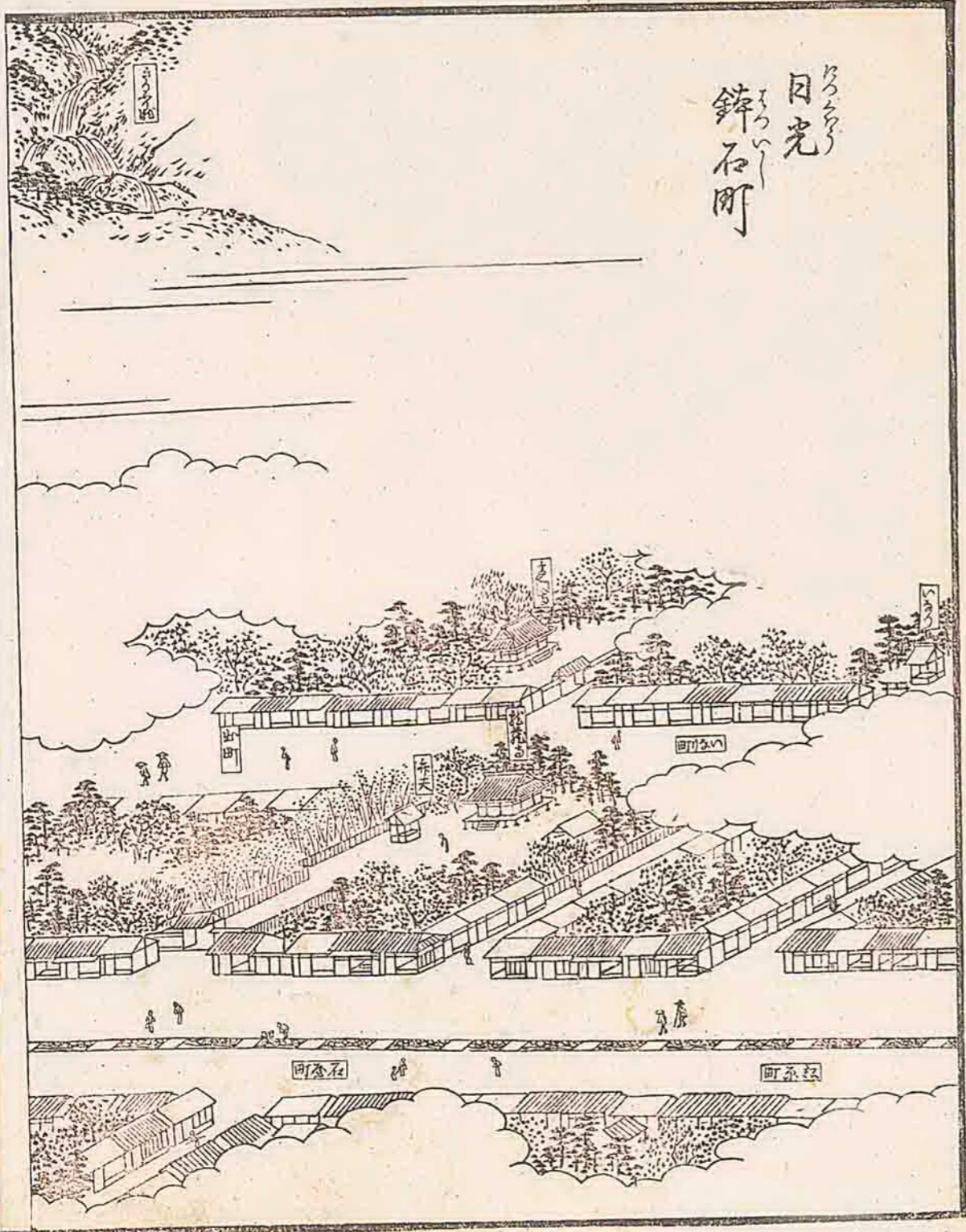
目錄

慈眼大師堂	新宮鳥居	御宮	拜殿	神樂所	鐘樓	御廐	御飯殿	深砂王宮	見目祠	日光山
龜井水	三佛堂	奥院	護摩堂	鼓樓	御手水屋	石燈	長阪	下桑石	黒髮山	黒髮山
稻荷祠	常行堂	御別所	御本地堂	紫銅御鳥居	御番所	石鳥居	神橋	碎石觀音寺	星宮	星宮
文殊堂	法華堂	相輪檜	御瑞籬	陽明門	經藏	二王御門	五層塔	飯橋	飯橋	飯橋

觀音堂	足痕石	十八王子	金剛山	骨堂	護摩堂	羽黒龍	大黒山	不動堂	池石	釋迦堂	南谷	番神堂
足尾	鞍掛山	藥師堂	中禪寺道條	素麩龍	石地藏	養生院	富士見山	三笠赤倉祠	二本杉	愛宕祠	西谷	別所
馬返	煩悩山	大日堂	地藏堂	平石	靈庇閣	阿彌陀堂	川俣温泉	寂光寺社	常行念佛堂	八幡祠	善女寺谷	三宮
不動堂	清瀧権現	裏懸龍	蓮華石	二宮山	赤柳山	慈雲寺	別所	求聞持堂	二子山	延命地蔵	妙道院	一宮

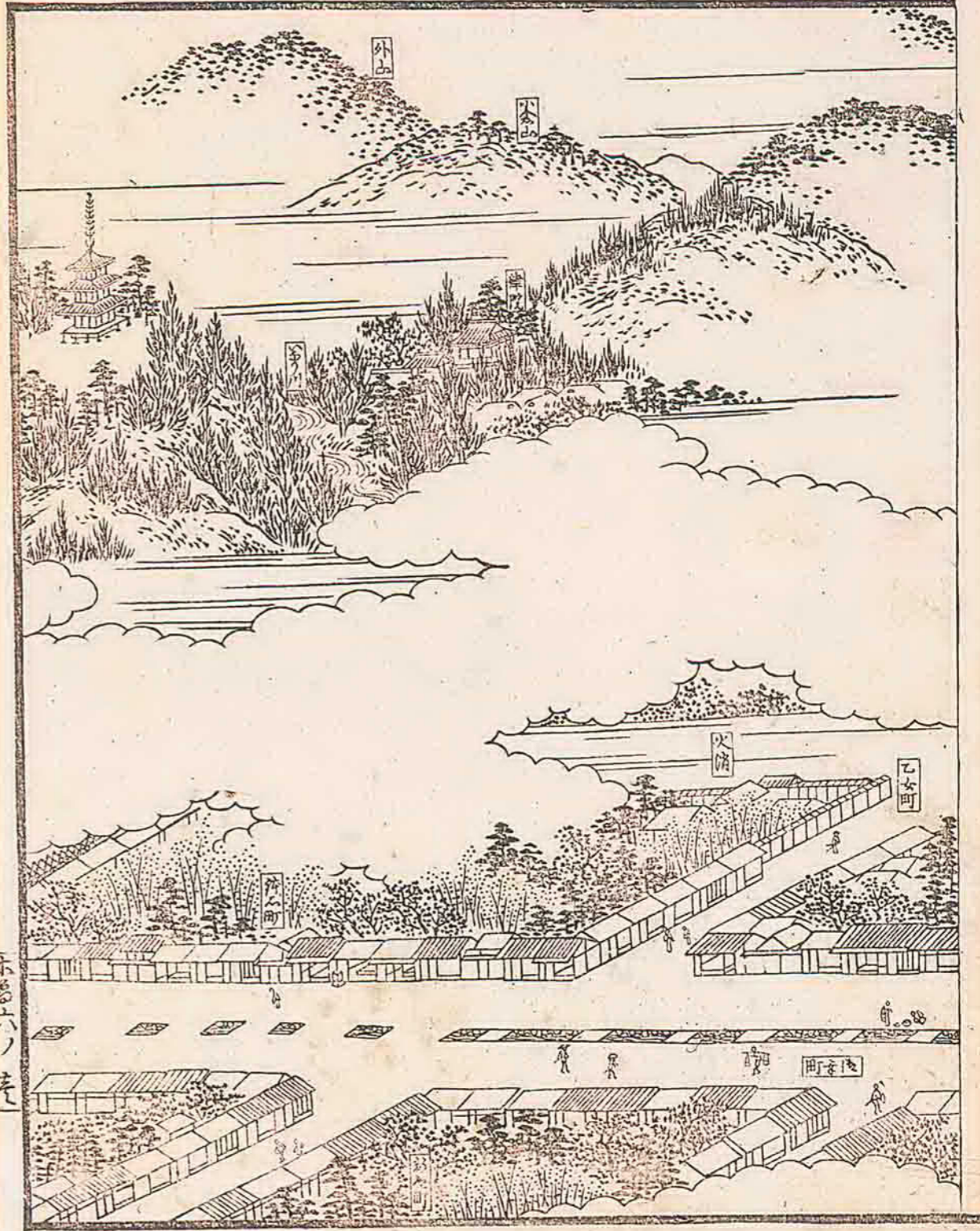
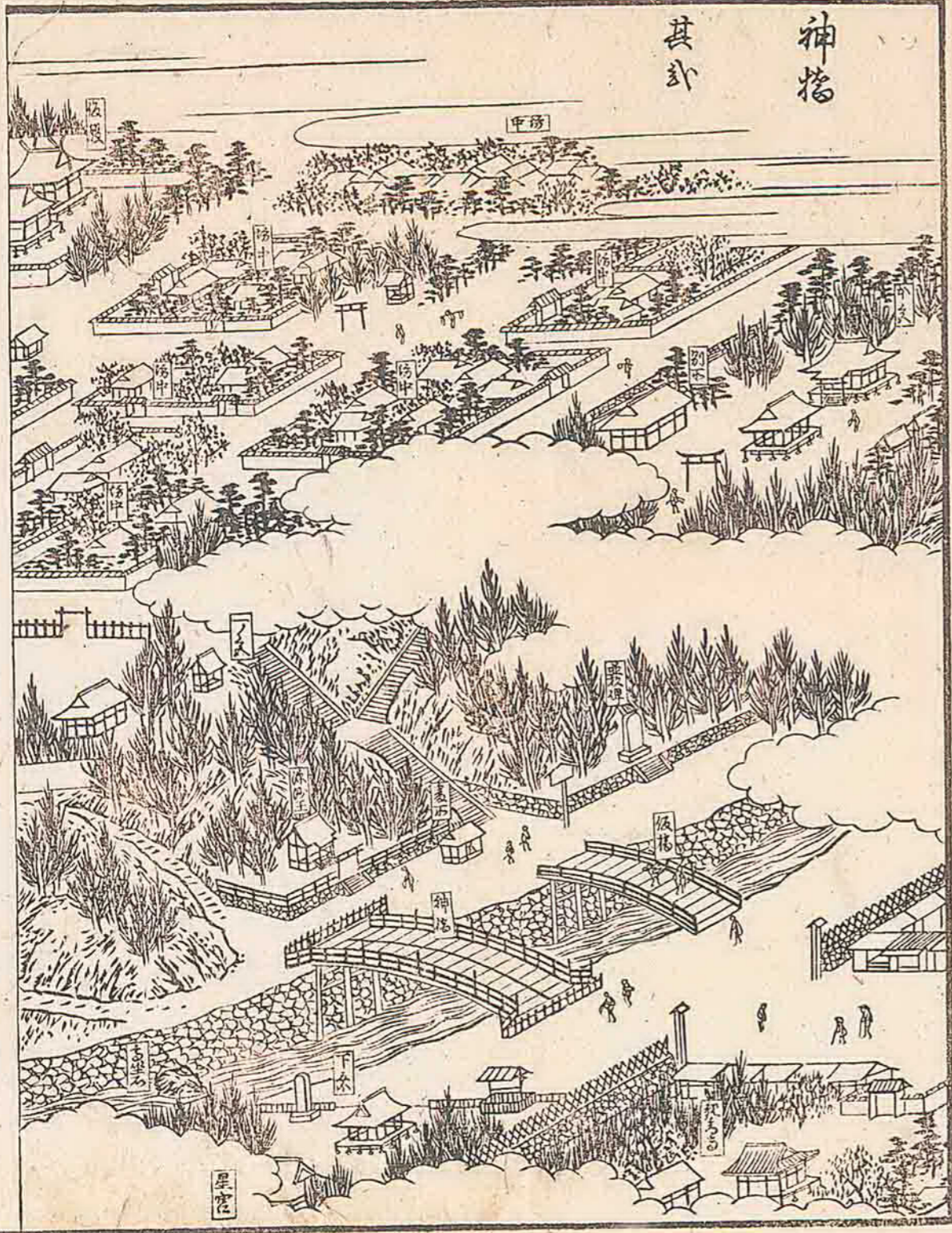
本地堂	三層塔	御産宮	不動石	批番袖堂	根幸祠	二王風雷門	御別所	山王祠	地藏石	阿彌陀堂	新宮別所	廿日御靈舎
山王祠	本社味經社	白山権現	七花泉	手掛石	子種石	瀧尾社	正觀音堂	不動堂	藥師堂	三尊石	十八王子	新宮大権現
稻荷祠	辨天堂	小玉堂	天神祠	外山	酒泉池	千手堂	採燈護摩所	三笠赤倉祠	行者堂	大黒堂	毘沙門天	金剛堂
護摩所	鹿島祠	四本龍寺	地藏堂	氷岩	三本杉	幸地堂	石鳥居	熊野杉	石橋	十王堂	山王祠	慈覺堂

日光
鉾石町



本居六目二

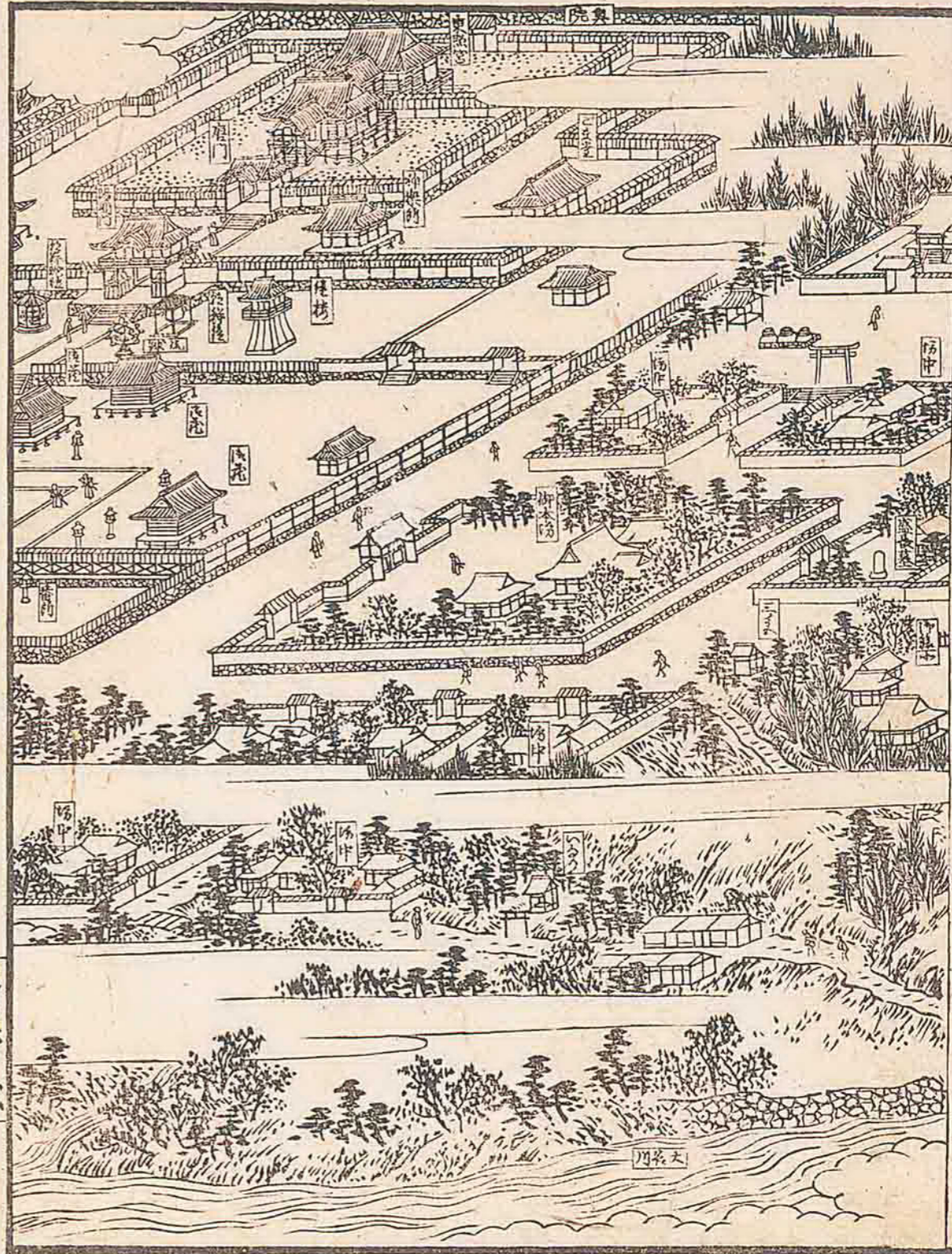
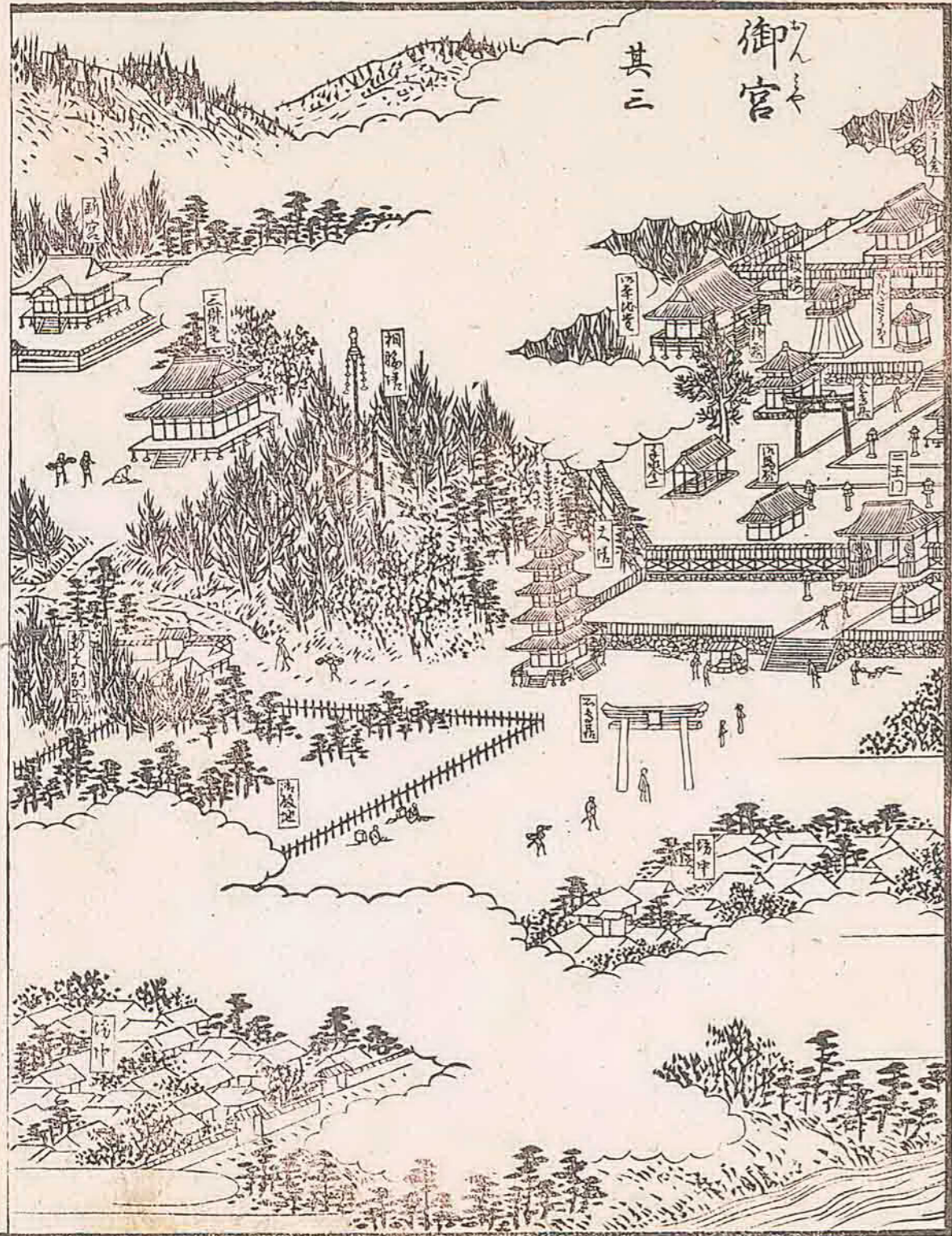
神橋 其式



赤橋六ノ巻

御宮

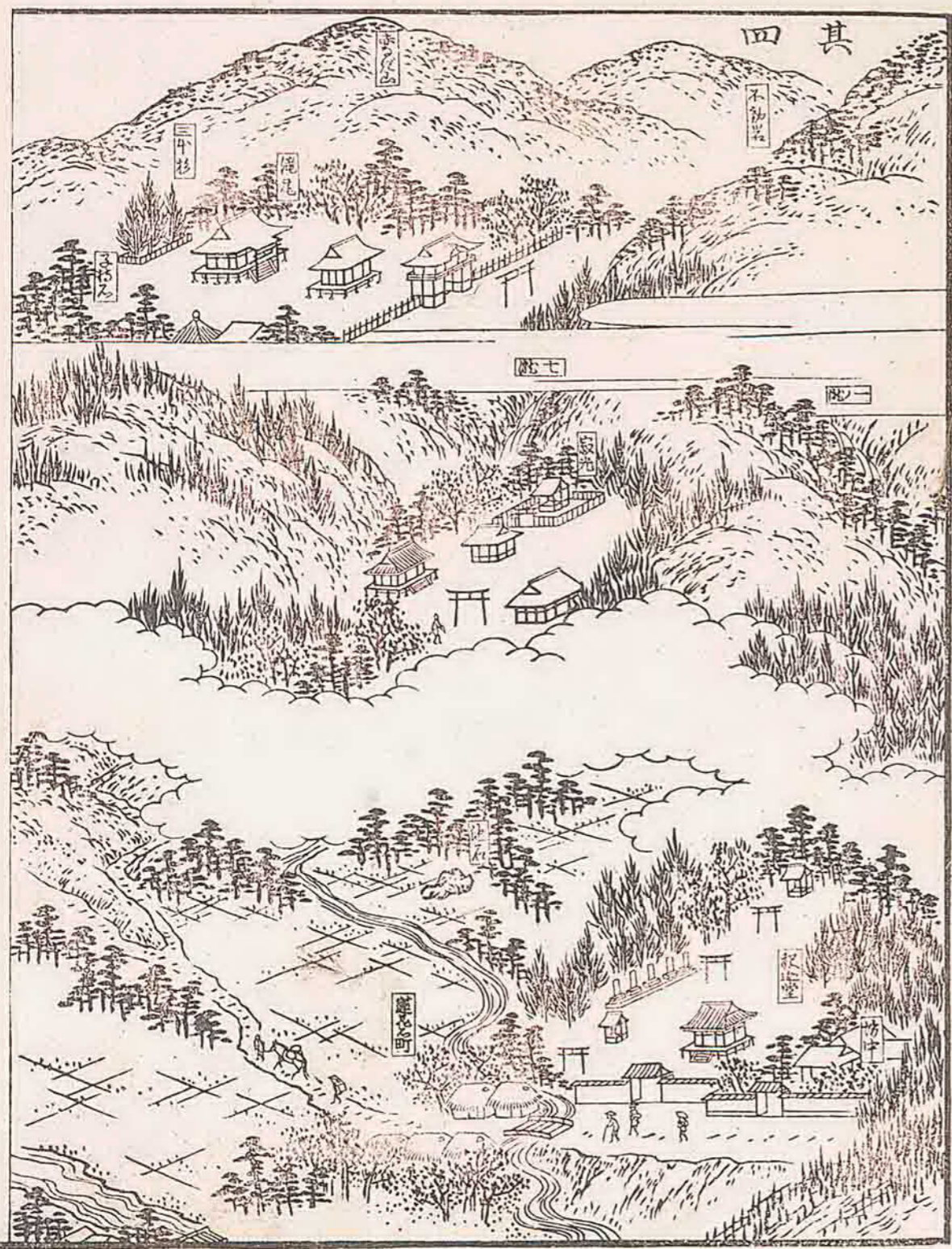
其三



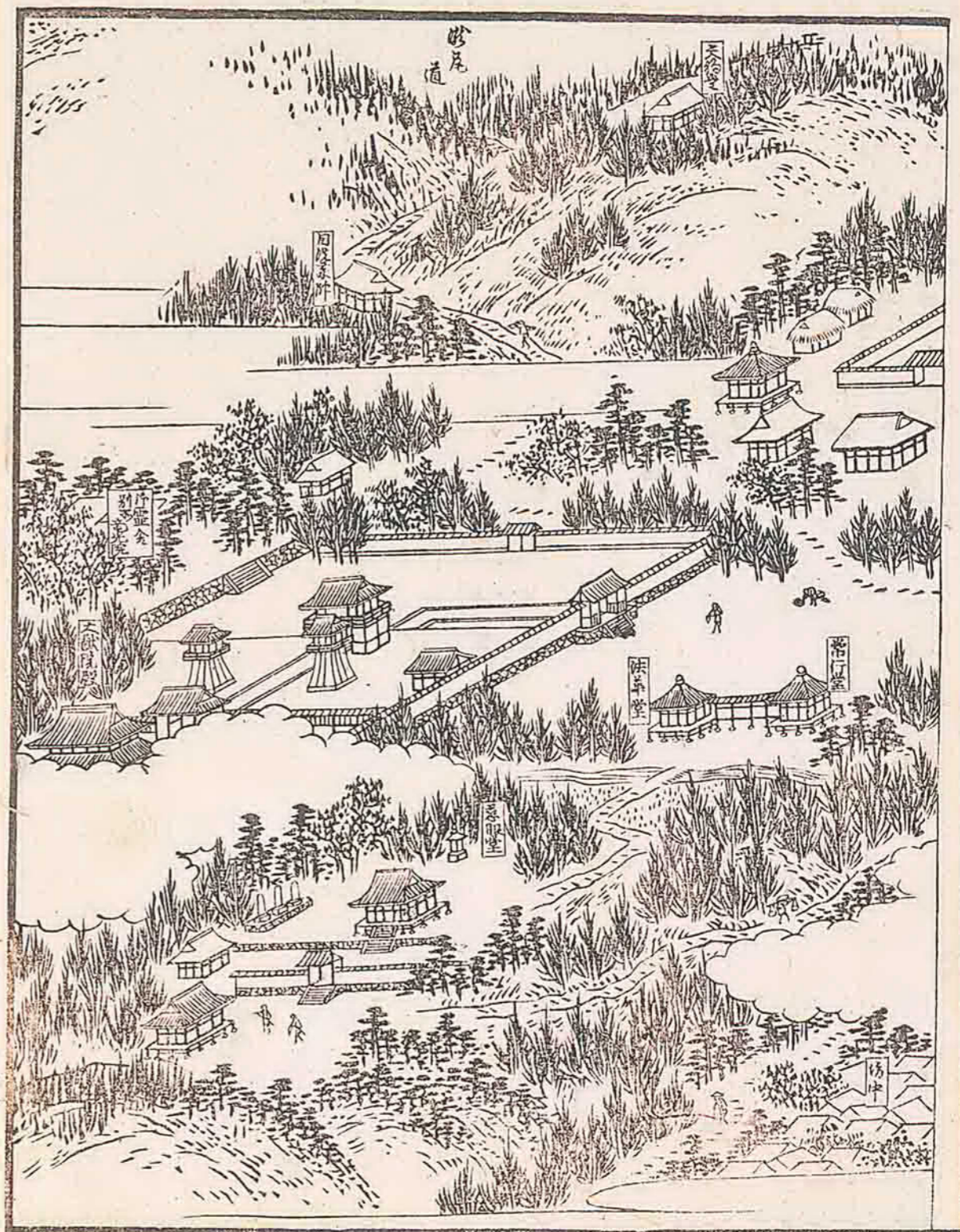
木下

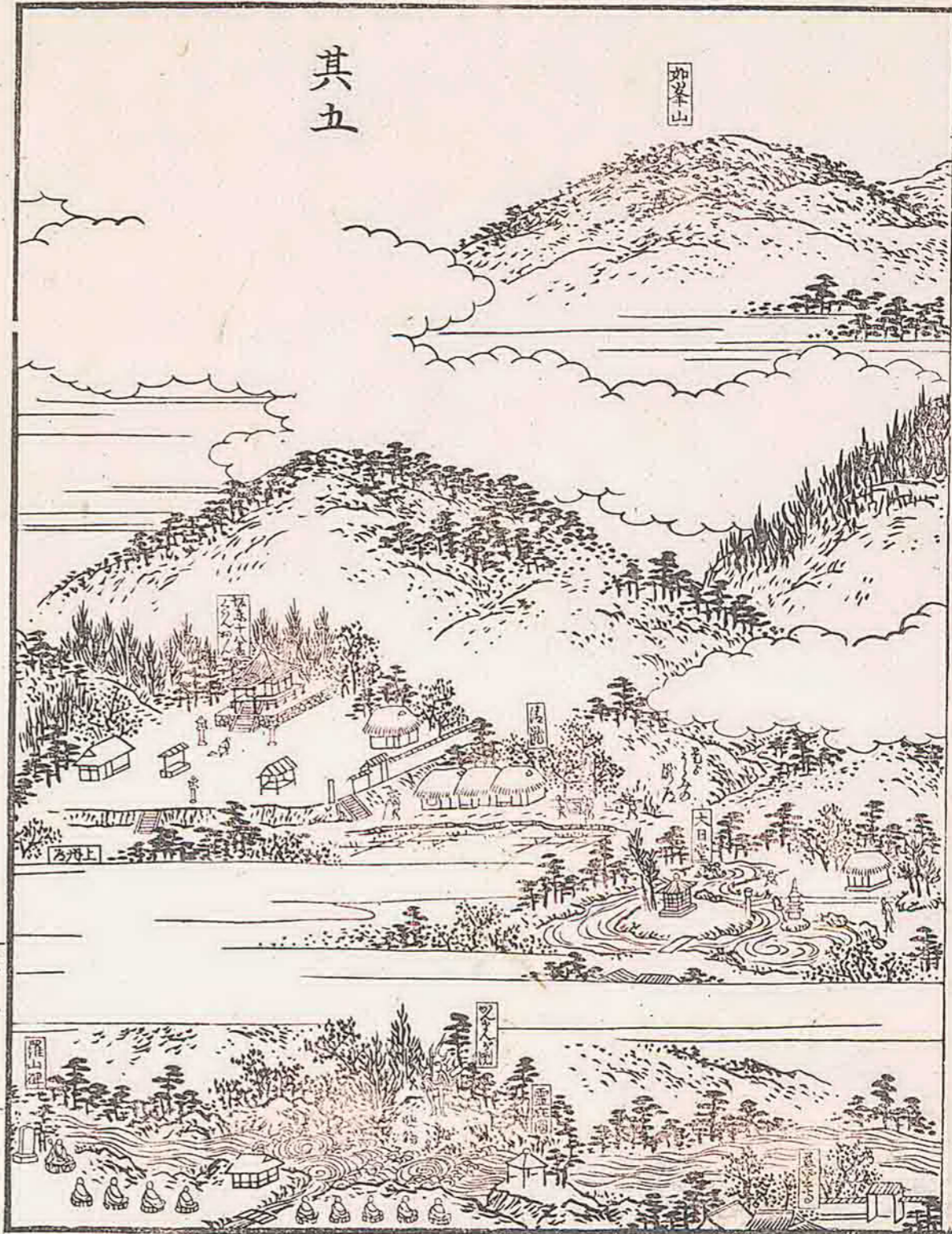
河原

其四

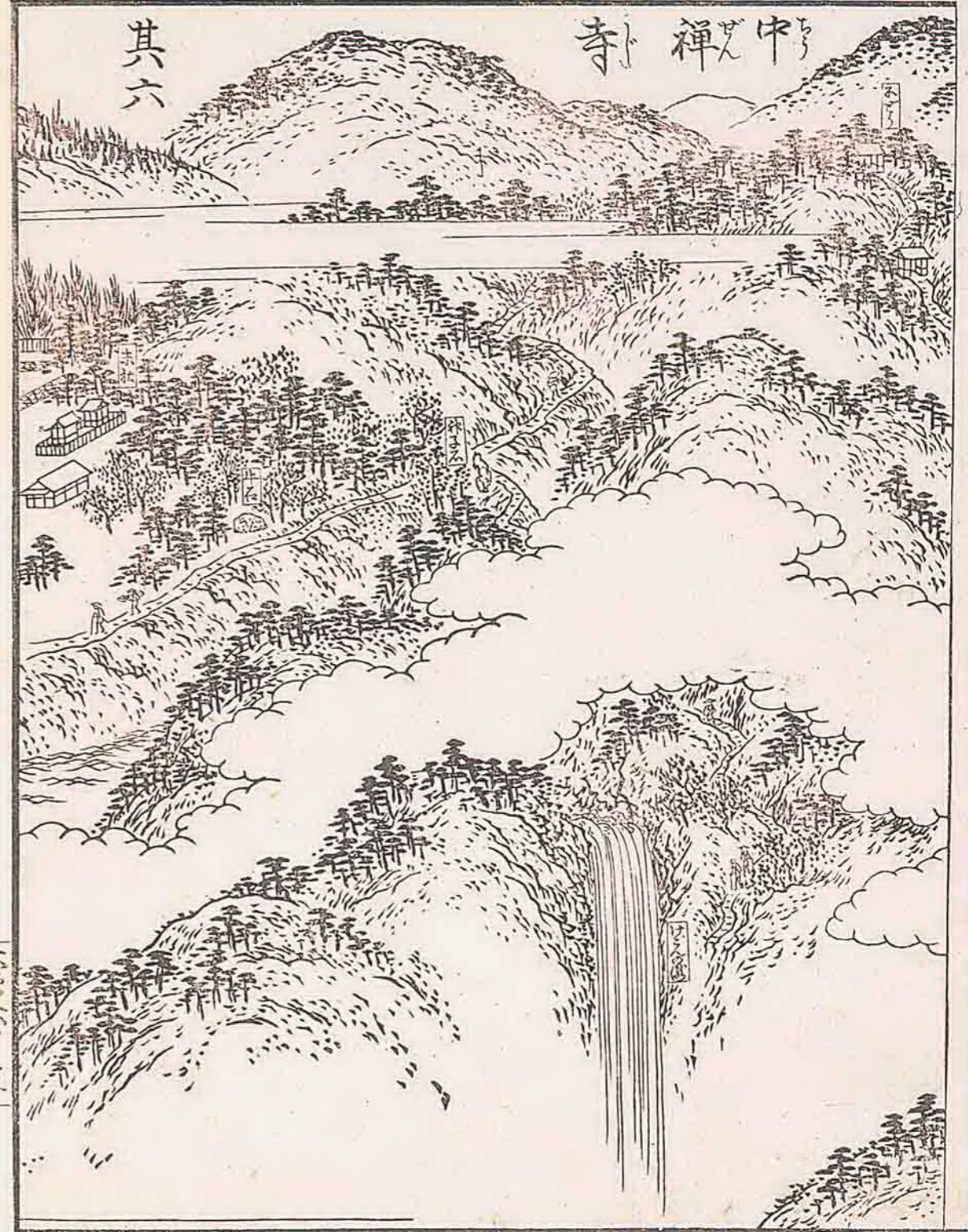
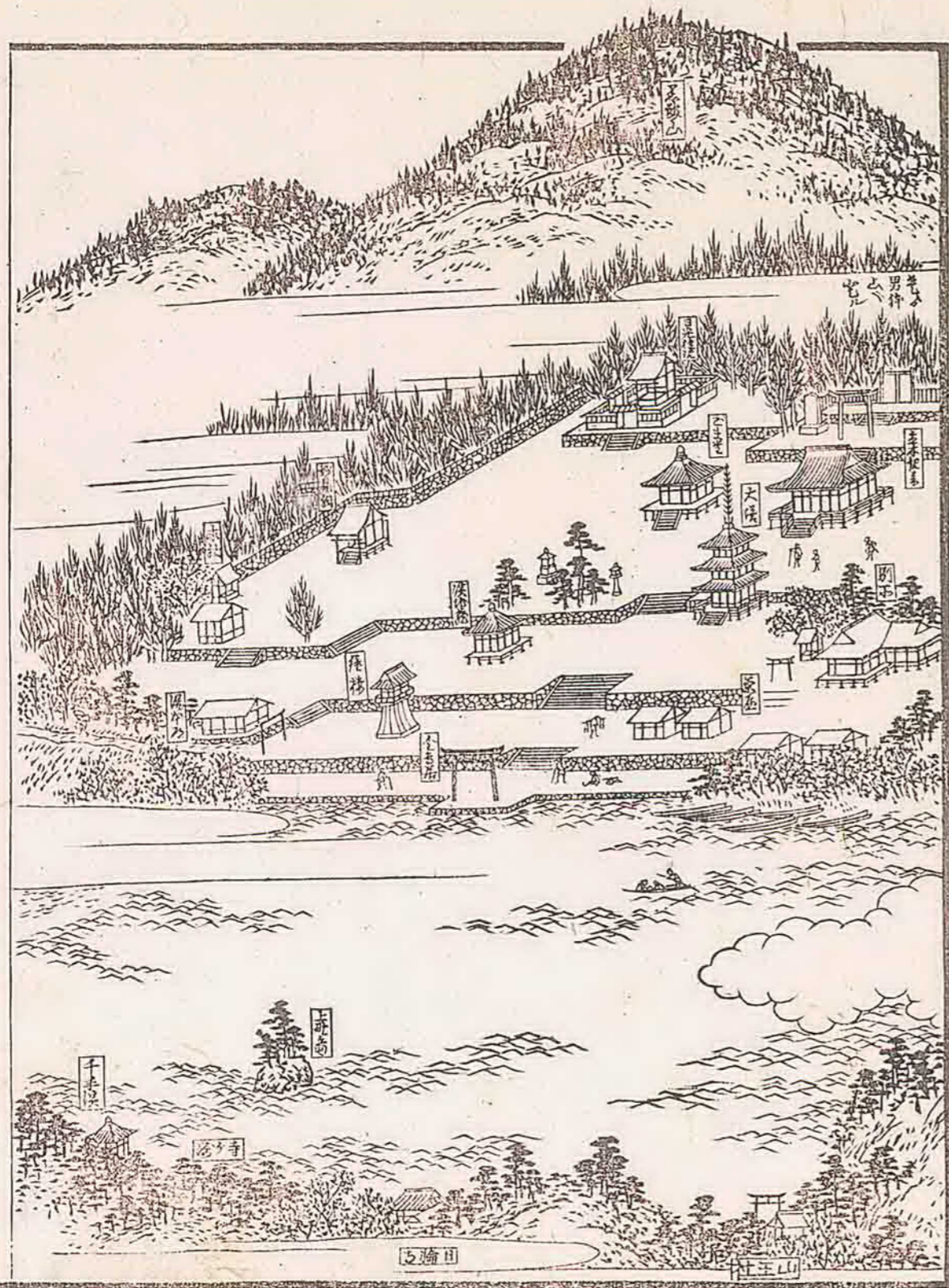


妙尾道





本卷六十四



本曾路名所圖會卷之六

今はむし一具原益軒のあらわれ日光名勝記をのりてこころに
清くぬまの宮にたてまつりて徳をばたけし所の御成りて大沃今市を
所存の所よつてこれあり日光山のそとめく宮の宮より九里其道
上る山は歩み高し左右の側は老杉の列樹ありてそ暑を避けし
涼しく御心とまふありしをばたけして慶長徳宗の靈場也

神代聖國都賀郡二荒山と人皇甲八代の帝稱徳天皇の御宇神
護景雲元年勝道上人の開創ありし上人を曰く聖賀郡室八幡とて
出延あり父と垂仁帝第九の皇子纏向尊十孫代の孫若田氏高藤
磨とて母と正二位左大臣若田清磨の息女とて父母嘗てみたり
幸茲此の山に流出し千子とす小僧と稱し終つて一七歳日満むる
八葉の蓮花中に藤系に纏れし玉の中よりあるの瓜とて終つとて
そより好身とて月満上人を産む別名は若田の若田よりて祖名

本曾路名所圖會

藤系丸とあつけ終つて小見切りて異相ありて佛門に入
ゆくと砂城の山光土をよむと堂舎と營むる業はむむ好む終つて
生成て出流の親者小僧とて終つての修修の内ふたびく不思
の清きあり二荒山開創者幸茲思ひて終つて七葉の清けり
園茶師寺に終つて終つて終つて終つて終つて終つて終つて
き幸宮四幸龍寺成清建管師とて厥后中禪寺ありてその
所の靈社をよむとて清き剣ありて終つて終つて終つて終つて
一終つて二荒を日光を改光りて又慈覺大師も登山し終つて
所と小堂社ありて終つて終つて終つて終つて終つて終つて
順意眼大師中興の園山とて神威を海内ふ終つて終つて
其靈場成終つて終つて終つて終つて終つて終つて終つて

黒髪山

日光山の幸
鳥羽玉の玉とて山若小僧終つて終つて終つて終つて終つて終つて

新千

新後拾

日本紀第五云

崇神天皇之子豐城入彦命夢自登御諸

山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

延喜式云

下野國河内郡二荒山神社名神

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

釋書云

勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有陟者

道以神護景雲元年七月企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹凡經三七日而還天應元年

藤人の真若此等や朽ぬらんまうみ山の五月雨乃以 公實

身のうみからん事七とくぬ思按山は彦命を雪 頼政

山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有陟者

道以神護景雲元年七月企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹凡經三七日而還天應元年

孟夏又興先志亦屈而退延曆之始季春之月發

大誓致勤修且日者固不到山頂亦不至菩提漸

達于頂衆峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境

道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺

又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小

船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰

神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅

任上野講師又與都賀郡創葦嚴精舍大同二年

州界大旱刺史令道祈雨道上補陀山行法雪甘

雨速降百穀皆登

圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天

皇第一皇子豐城入彦節察東壤其次子留為鄉

人仁其胤也延曆十三年生焉是日紫雲覆產屋

同書云

同書云

日光野

同郡大慈寺僧廣智德行兼優俗号廣智菩薩者也。適見祥雲出尋起所乃檀越壬氏之宅也。其後仁遂就廣智智將仁登膚嶽與傳教教悅納焉。世云圓仁大師登日光山立寺院。

又二荒とも書け入上の所沢初石とも又辨石とも書け今市より二里の間列樹の枝あると農家ありて辨石の本戸を入ふ松原所石

○瑞雲山龍藏寺あり幸尊親音を安ん慈覺大師の地なり先づり小

二十二番の親音あり辨助天堂惠心の地なりありけ寺下盤坂赤

其所の中程小結守あり石裂神とあり又楯巻の原ありあり通り筋

辨石所と云ふ別あり下辨石所と云ふ松原あり八乙女所と云ふ下

辨石の中程あり

○寶珠院宝珠坊とて小寺あり寺内本親音堂あり運慶の地と云

坂東の札所なり又所の向ふなり

○辨石山親音寺あり寺内の山上下千石親音堂あり弘法大師の地

かり上辨石所は本曲所の名製塗枿梳折委曲物多あり庭有

右初先の松系所より南所まで約十二所外あり

○下馬け所左の方本石の原本糸登りて森の中あり

○星宮あり幸尊へ天童を安ん慈覺あり日下續々南山と云

出家入峯の節勅仍の堂あり星の宿とあり毎奉極月廿六日と云

○豊鏡の御蔭教あり行法は日所の蔭あり

○見目明神と云ふ

其は凡そ山都てけさるるをんまが四方をめぐりて終る
はるまき

○神橋津山入口あり欄干葱宝珠ありつらも朱塗ありは橋を
りし山菅の蛇は橋とありて田基勝道上へ入りて登山
終りしは川よりありて橋なり深砂大王忽ちて現し青赤の二
蛇を放る橋より終り終り上へ傍ある山菅沢川に蛇の背小鷹の波
たよりゆえづけて中河に神橋と名づ橋乃竹折三通ありこれ
乳の木とて西の端一の乳の木引籠一所を龍宮へ通下り
つひ橋よけ橋の内中七社乃婦神を勧修ある色帯に雜入ある石原
者成りてせん橋をけくの附に神幸法樂の祝式あり

○假橋標干あり附東の馬をける川を大谷川とて大谷河とあり
水原と中禪寺湖水より流る右の左は坂と東山併岩苔の坊舎
竹通筋あり坂下に碑ありこれに 御神領の場より南前が

○深砂大王宮名居の額へ大明院一品准后法親王の眞筆ありは社と
神橋守護の垂れあり

○長坂 御宮への道筋神橋より登坂ありは坂を所す終あり
日所道のよ小軒月長月の清系は清後所ありは所は終る三品
の清系は備へ人森樂以奏してさぬがれ清祝式あり長坂より
中山通り小寺四所ありは中津津と流して寺内小安達殿を
盛長の石塚波安あり道の左は清築地と 清殿地あり右のうこを
御幸坊 輪王寺宮とやまをれそあり石の居本坂登りて

○石鳥居あり黒田長政侯爵進ありは石鳥居前園志麻小倉九村の
ありある小山ありわたりとて高居の石鳥居あり南海とめづして
南山よ達せられより見たりは奥に元和に年正月とあるあり
高居の鳥居ありと上の笠石中二丈八尺九寸貫石の下は後石

上二丈を尺上の望みの様より六間二尺四寸兩柱の間中へ二丈二
尺柱のつらろ二丈半ありと一兩柱は後目一所ありとも房小敷あり
長サ四尺七寸横式尺寸七分ありとを清家と 後水尾院宸極し
左の方

○五層塔に柱の酒井續波守清家附より卒る東の基階をの延院
北を東邊南の邊變中央土日如米形り

○御假殿 二柱を 御宮清造誓の附邊ありとす所は所めく
二六冊中の清氏はくろり又赤月十五日身屋上まで毎年清湯と持
ちる則は五羽の釜にあり

○二王御門 北は清の北石原本兩殿石焼燗兩基と酒半續波守源忠
勝初名の清を納まり日どく右の方小

○御番所ありは所中へうづ物入れ物をねとそとく清とみづろふ人
入るに儀客と系指の事亭主より揚麦の社傳小胡乳とくろ客

せうしひの金とく社傳の社傳の事柱を有く清門表小見や一見とく
出入を石垣とて石二つありこれと書ゆり出傳徳彦の寄進小あり
あふふの石垣ありとす一石を房守二石五重塔守二石石垣の大石と
中里くろり石垣の内小堅換三間餘の大石ありこれ成阿房石荒田と
りつたろひとくろとく

○二王御門 北は阿門二王長一丈式尺餘裏の方の唐獅子なりは御門
城今と右は金焼燗石焼燗あり是と諸彦方より清を納まり右の
方に清家親三箇所は及小圃あり楨一樹あり

○清廐 素本遠より清神馬ありとす中廐ありて清を納まり清の清附
は所へあり

○清手水屋は清手水舎の清紅石柱より建て天井の彫物を浪小飛
龍形の手水石柱を肥前佐賀の城を綱清彦肥前より運送し
清を納まりの奉結の奉職とくろり清の清に清とて清と

○紫洞御多居あり

○經藏傳大士の傍に坐して佛とて石階を登りて

○鐘樓鼓樓左の方小朝鮮より献上の廻金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の捧鏡あり

日光道場為

大権現設也

大権現有無量功德合有無量崇奉結構之雄也

味曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補靈山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈

肇闡靈真

玄都式廓

寶鐘斯陳

參修勝緣

資薦其福

鯨音獅吼

昏覺魔伏

非器之重

唯孝之則

龍天是護

鴻祚偕極

崇禎 朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

は鐘堂不持ん正月二日所祝式の時をとりは左の方小阿茶陀

の寄進せし地盤あり其制法日本の物なるありあやむ又琉球

より献ぐる二十六缸の地盤ありは諸侯方より所納の所地盤

ありとのりは所納の方小

○御本地堂幸尊藥階如未三列鳳来寺碑の薬階と稱し二菩薩

十二神將を安置は所堂大伽藍に於て吳藤柱金標卷長押の

地盤ありとのりは所納の方小

同本堂の所納の画あり狩野永真安信の字あり

○陽明門 但し武士といは所納て刀とぬきて所門内へ入

は所門の所納を好くも

棟裏の陽明門を模して表の所隨身左

右より極彩色なり裏と風神雷神御門の御額ハ

後陽成院の宸翰あり修小勅額門にも云々は清門の結構は彫物あり彫物も六琴茶書画あり八周公且織撈費長房盧放琴高院籍就青康豊干王子献孔子顔回と云々め其外二笑四友六侍九哲も至ふ中て悉記と小字端もと及び根生れと豹虎龍麒麟獅子獺いづれも南本の端小刻ありあり其まに多りたる所もあつて鳳凰孔雀其外唐多き一日幸れ禽獸と云々も又云々も極彩多り同様に威令のつか物等も極ひ輝小光輝とてあり然然と云々中を通り此天井也然り得也探幽守信の字あり此の圖乃天井也天女が書画も左右の清回廊折廻り百回あり彫物の樂天が友子献此君又文を記す梅枝杯と云々也かびに清門を令く庭上もある衆石と清川より石あり口く左の方也

○神樂堂毎月八乙女出仕して清神樂所奉養を以て祈ふるにび

○護摩堂幸尊五大尊明王十二天を安んずれば祈ふかあて正五九月十

一日より十七日まで天卜安全の所祈禱の護摩と修りせしむる

○御唐門素木造清柱と上り龍下り松梅竹の彫物金具繫し向ふ方

彼風と洋由巢父ある七賢七福神等彫物あり天井と天女の彫物あり

は清門と清の唐木城を以て書寫し懸けては所の彫物の至りて

寧ろ多記とる小字もを及びは一板の板と其向ふ構ふりあり

いづれを細ある所とて彫の本は用ひて修るあり一珠に細工の妙は神

に入るるの也清庭石の上は唐銅もく意とる小虫取事あり清門の左右

○御瑞籬は彫物の千草萬花ありを高くの趣をも本間も遊び鳴る風

鳴る響あり

○御拜殿彫物に二所あり春宵の男女を修りあり

御兼座も二十六歌謡をかけし清音と

後水尾院宸翰あり繪の土佐左近將監の字ありは御着座の間と

両方とも小異邦の名木香樹を集めて造りたる六偶は室よへそのは光

さう小夜母のげうう若くたる椒蘭と花はく其業の敷日越さば能ふ
鴉羽毛の敷金玉取取入る自然と鳥の中ひんぐ花鞠人とすは勢あり
御本社 奥原成三様十一間並にその長一坂の石垣八五間并み見ゆふ
石垣前は二階ありとて一坂とありかたわくは

芭蕉翁や杖跡を道と云

御宮下の英霊なる春日幸一形り
卯月形り御山は宿を姓背け清山成二荒山と書し筑室海大降冠表
のくは日光と改免のふ子業末本と成り終すや今は清光一夫小
のを去りて思候八若くありまは臣民安堵の栖穩より程候りまて等と
し一垂ぬ

あつたうやまも業末の業末の光り

御幸地と云ふ作溜溜光の意作相殿と摩多羅神山王様現あり
毎奉卯月長月の清神幸あり卯月成 例幣使と下し終ひく
宣令成持ふ又 御名代とて高家方奉勅日く 御祭禮御奉行
諸彦方二人奉勅尚社の清祝式成事とる奉ハ等端小並がこ一正ぬ九

月々 御座主の宮城も一光より一山の信侶社役の面々修人出仕
ありて天下安泰は清禱あり

○奥院清幸社の後山あり 御寶篋一宇業綱よりうび清御殿
の清文庫ありけしつくと貴職もも奉清竹けん

○御宮より下向して二王御門左の道先小
御別所大樂院けしつり毎日 御宮之神供成備へまはら終りう三佛
堂中二丁馬場先右の方よ

○相輪檣 縁と傳教大階六十四の清願文を記して敷敷本ももを
日幸六所は建りてこれ六十餘列安全の清禱のつあ形り功德無
盡なる成をの意願大師尚山は清建管ゆりしけお小成すの
人倫をりつよ及び倉敷草本の成中佛果成ゆりて之を親く特見
法縁の幸は現を身ての無量の罪成清一奉奉承く三惡道の苦成
免人幸文了疑あふりし甚深微妙の功德ありし

○新宮の鳥居 清瀬正一位勲一等日光文様現と書け 一品宮公寛
法親王の真徳あり

○三佛堂 當山一の大伽藍奉さるる陀佛長九尺守千手觀音馬頭
觀音とあり長八尺守慈母大降の清光三社文様現の清平池
堂なり又堂内乾の隅本勝道上人の清光あり良れ方に軍荼利明王
の像ありと終りて寺所終りぬ

○常行堂 奉尊の寶冠の陀佛四菩薩後本摩多羅神とあり堂
に頼朝との清光ありと終りて寺所終りぬ

○法華堂 奉尊普賢菩薩鬼子母神十羅刹女二十番神傳教之降
の清光ありは堂のけりとも人皇五十二代淳和天皇の清光と長二年の
建之也堂内本傳教之降清光の法華經一巻納めりけり堂の
小道ありと終りて二間ありと登りぬ

○慈眼大師堂 天海の清廟より寛永二十年十月二日遷化し終り勝道上人
より五十一世の清彦皇まで中興の用山たりと當山は法光ありと奉代不易
の基成り終りて終りぬ

○石像の三尊佛ありは所左の方より當山 御座主所廟あり
本照院宮 久遠壽院准三后 解脫院宮 大明院宮 等の清光現
ありは所 ○文殊堂大降の清彦皇より求聞持堂より小清持終
る清彦皇ありと終りて寺所終りぬ ○御別當極量院あり

○廿日御靈舎惣門は二王ありと一門清瀬 後水尾院宸極ありと終り
夜叉門は御唐門瑞籬御殿其の小御本堂都く花は壯麗なりと
御宮小はありと終りぬ

上の石燈燵凡五百基あり又朝鮮より獻ぐる金燈燵ありは所堂へ

あり多條の者と許されど日所也の方御別所龍光院より毎於淨膳
成備ふ

○新宮大権現と棟造りてあり御殿あり日光大権現と稱しまた
衆神と云ふ已貴合を地と千手親善形社と仁明天皇御宇加祥
年中慈光入降の淨刹建より九ヶ箇中の人社と云ふ一尊盤めと
見えしうけ権現の淨刹五穀豐饒福壽長満の淨神之神靈本
終と切丸を力世のほりれを刀拍を刀づとも五尺餘ありて靈劔を又
小山新宮と看しは不獲甲其外玉簪とて深藍珊瑚珠一ツとて二百目
あり額朝乞の淨願書ありの奥列春衡退討のとん持れしと其外
什寶ありとあり中めと勝道上人け権現の淨對面の耐夜の社と考せ
すし淨神徳もけ社と收すれ毎歲三月二日を祀りて二月廿八日より
三社の神樂を御殿小飾と供せられ存子ハ妓道と前日より稽古し
其日小まより夜裳と唱り親善其祈也真ありて神靈試むと先

な多神樂と平宮神幸形と稱し三佛堂のありて延年の壽と云
幸あり一山の衆徒中出動ありて由社所物と右の方に

○金剛堂あり○慈光堂素本造形なり幸言慈光大降の淨刹あり
三十番神不動尊成安に○淨供所あり

○新宮別所安養院文殊の像千子の像あり常行堂の東方あり
○新宮末社 ○十八王子 ○毘沙門 長五尺許 ○山王社

○阿弥陀堂 慈光大降 ○三尊石 列は千夜行者 ○大黒堂 運慶の
○十王堂 ○地藏石 右の方尾尾の道へ入不勒堂より尾尾中や十

二所餘あり小坂を登り中行ふ
○薬師堂は祈りて靈泉涌出たり神成を以て服成はは陰多ふ

晴るるとくこまよとして因陀羅神と云はれ
○行者堂坂のそありにあり幸言彼小角子と云ふ水道を察あり

○石橋あり 禁制の所あり
それより一町程あり

○山王社 向お造り 兼て名居あり此社と嘉祥年中慈覚大師の
御建定あり

○不動堂 幸す明王二童子共運慶の像ありは向ふに滝尾とのふ
飛泉あり石階をせり中程ふ○二尊赤念持神の石造の祠あり
左の方ふ○坂中石不動あり○懸舟板とて著供養の場あり
其坂の上○淨別所は所て日光責とて食物供をむ者あり其
食物供あり又強香か幸くわらふ本捨形所の責道具あり登ふ
うけむらう又大煙管ありわらふ縁て別所くわらふ及ば浄中阿
中てとて浄あり他所より事とて初く奉成るるわらふ縁あり
てと 浄代系の法度方丈所の寄木へは張きのわらふ飯石の幸古例
なり又日光の浄代地めて奉子替形動室ありの程あり必日光寺
ありとて浄ありあり幸く其のわらふ是其新橋く形ありわらふ
ありとて浄代系の法度方丈所の寄木へは張きのわらふ飯石の幸古例
なり又日光の浄代地めて奉子替形動室ありの程あり必日光寺
ありとて浄ありあり幸く其のわらふ是其新橋く形ありわらふ

向ふに素禱告あり

○正親 幸堂本より長五尺存ありび二十番神例あり

○採燈護摩所 幸より石像不動あり此は入孝の儀は純然せり護
摩ありとて靈徳ありつづきの別所ありとてこれあり

○石名居 右の方より約遠ありたて撞は向ふあり

○樓門 表より二王裏より風雷の二神を奉り家より弘法大師の浄代より
て女射中宮とありけり門とて入る御殿あり

○御幸社 滝尾大権現祭神 田心姫命 幸地より阿弥院ありとて向お造
の浄社あり 押入より五十二代 護藏天皇の浄願ありとて浄造堂ありとて
當山のありとてあるとて當社よりありとて浄神寶ありとて
弘法大師の浄代ありとて左の浄代ありとて右の浄代ありとて
二王其外奇形ありとて浄代ありとて浄代ありとて浄代ありとて
るは寶品ありとて浄代ありとて浄代ありとて浄代ありとて

○千手堂宝瓶造 幸号長六尺好弘法大師の沛池

○幸地堂幸号阿弥陀親善勢至の二尊佛惠心傍都沛池是日幸

に三斛の幸号之日所後の方小

○根本祠小祠ありて終り西の方への道より

○子種石系小名居ありて子種人ける新系と見たりて雷應育

とつ其より

○酒泉池 池且七尺やどりむりけ所より酒涌出るといひ傳ふ今小

あわく酒の香ある泉にけち中にて石造の社を辨財天也

○三本杉本社の後小ありめづり小石の垣ありて二社の神本はく日光の三始

よりありとつづれも本より中此一株は枯く植たり

○二十番神堂 狭帯を結ぶ六十の経の所へ結り下向に

道のよりけり ○飯盛杖は杖古本もく杖より下へをりけり

志よりけり ○初沛門とつ本の名居あり又左の方小 ○沛神

馬碑とけり沛龍の沛馬の碑あり幸号長年中濃州沛陣の附け沛馬

小石に沛勝利ありて移る碑の流と星表ありてんくごり ○手懸石

け石の昔権現の沛子とけりを移りて佐左の方の橋河より向ふの

高れと成 ○外山とつ毘沙門天を移りて南山の鬼門小南に六守僕石

とめとつ二月三日多務郡集其山はけりを ○氷岩を畏の月よ

を水ありとつ又はけり山よ ○不熟名ありて山は海へ入る

○七龍あり水源より別七所ありてあり

○天神社 池尾下向道右の方山奉小あり石造の社ありて終り寛文元

年二月廿八日菅原大島長氏法眼信幽流業を宰府の聖廟とあり

小模してありて稍経て延宝七年六月廿八日商孫信祐石の社頭

を造りて神威中しく靈驗ありて流業に著しとつ ○十王堂

地蔵堂宝瓶造りて所を佛岩とつ幸号とつ像より運慶の作

たりとつび小勝道上への沛龍日十弟子達の教を安上人を地蔵

薩摩の再建がまじくけし所不立給ふ故に冥心雲とあり○裏り
上人の廟所并子あ人の墓あり上人の淨骨と中禪と上座佛と納ま
まり

○淨産宮向おぼくろき社に幸地普賢菩薩よりけし所とて妊身の女
立形とれを安産とけし所のいれぬ

○白山権現幸地十一面觀世音ねこ様より坊舎の赤紙通て中文の物

○小玉堂も并お殿あり南社と早の化神とけし神の淨幸神秘
るまはる人ありと様よりま所はせり幸宮の境内も入石橋と渡
て奉本造のまあり

○四本龍寺 室軒造 幸言の千手觀音より坊舎五太号勝道上人安
き南山冥祥の時上人より住居よりと意跡あり

○三層塔 幸言釋迦文殊普賢を安ん
御本社 お殿あり 系神味相高長根命 幸地佛と馬頭觀音より

本巻の十八

大月二年勝道上人は所小動信し終ふ者社と宇勢文と一射とふ
又宇都宮の社傳と大已貴命やらの南社淨神と専武運長又弓
箭の淨護神なり神威つらとる下野の大社なり神寶と神咽の
淨化の十一面觀音中将姫蓮の系に織る佛画の切枝綱彌珠本其
外志かくこれあり末社あり○辨天堂 并十五童子○鹿鳴社
○幸地堂馬頭觀音○山王社○稻荷社○採燈護摩所石像
不動大日靈降と安ん○名居ありて○三十番神堂と終り

○別所は不も日光責の道具状けきと別所の内極ふけり一面と
十一面觀音表とて觀るは終り熱下てつきの別所も最座

の間とらとく秘器の履摩淨りの間あり其やうに極みか佛秘儀表
て建てると板小棟石像の若入る幸叶と不思慮とらとまけ別所

のあは方森の内小
○三宮 幸地普賢菩薩
○一宮 熊野権現
幸地文殊菩薩 けあ社に淨旅所あり

上小立子伝中より神橋の中に入りて西谷の坊舎より小西河の
道より大谷川の川端を通りゆく又これより水の方指高川をわたり七
町やどりく天右律院あり真雲院と錦丘山御座主律建より
奉堂希小ニ社持現社経花持門を建つ清爽浄なる雲雲浄海
摩磨の佛界より清寂と戒光殿一品法親の清なるあり

○南谷 西谷 喜女寺谷何事も神橋より西少よ高より西
町より 四郎所 石所 小袋町 幸町 上中下 大工町 上中下
板橋所 蓮新石所 此間の手前田母沢より高橋あり

○妙通院 石所の端ありけ寺一山の善提削寺因小○釋迦堂平
言座像の釋迦佛文殊菩薩と惠公の作也 希よ慈眼大降の御乳有
け書し七帝の志佛と修仁堂のうろよ ○愛宕持現寺釈迦日の
修よりけ石成物く町頭小○八幡社南所の修身よりうろよ
○六地藏堂ありけ書しうろ石成通て寂光寺へり遠あり神橋より

寂光寺で二十町修ありけ道入りの服よ

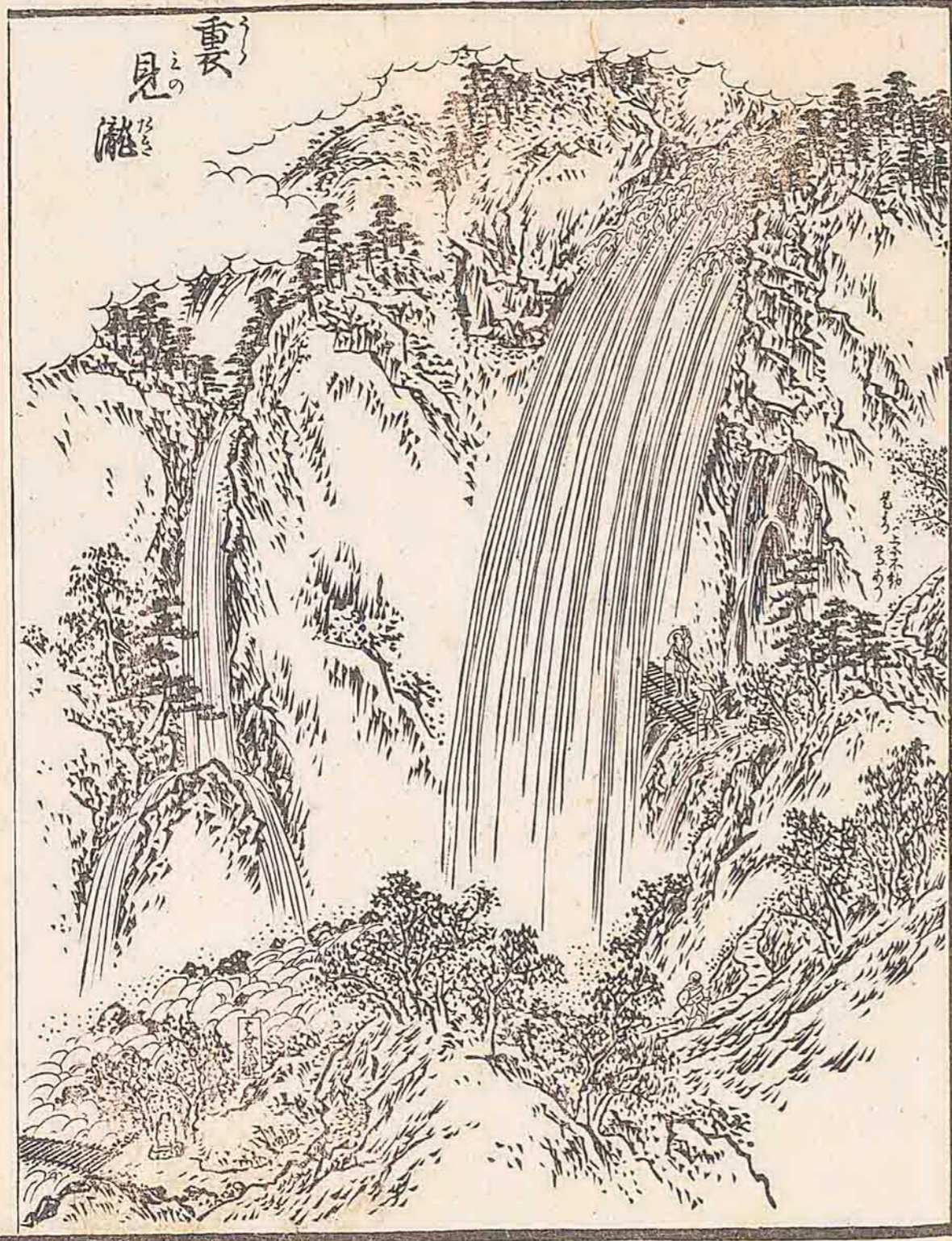
○延命地藏堂より七八町ゆき ○池石けるの上よふありなるあり
ゆふゆきと又倍の云ありゆむり生法とせり名馬けるの中より
ゆふ馬の蹄乃痕ありとぞそよより六町やどりく寂光の地小合
け入り小

○二本松山一の大杉母く大サ牛沢隠居より道狭狭く二つの木お封
せりけり希よ奉所ありて六七十町程のくたの方

○常乃念佛堂幸より三言佛惠公の清作と清正殿は阿弥陀を
寄んけ書し釘念佛の札あり又細々とけ削は病るなり高よりゆき
常信不忘の念佛紙乃を堂内より釘念佛の紙作覚源上人の清教ありけ
上人彌王より將來せり後夜の印文ありけとけ此縁起小あり
書のあ少しゆき高れ削小

○求聞持堂幸より虚空持菩薩慈光の清作より歌と

一品准后法親王の真頼ありて多居入る向の方小○二十番神堂又
 少一登りて○不動堂○三益赤倉のむ社あり又少一のりて
 毎殿あり
 ○御本社寂光大持現多神ト照娘命幸地と辨財天女あり南社と
 弘仁十一年弘法大師の寄奉あり付室中十二の箱自身鏡その外
 あちこちあり右の方小池ありその源遠ありて箱鏡く解るべし
 尋の市成晒さる如く一蹴の南小池なる山傍の岩窟左のりてあり
 元工火延の梵字が四字空海と云給ふは地よりよ小○二子山
 ○大尾山は奥入る○富士見山ありは孝より富士のる根なる
 かなれば
 ○川俣の温泉をわく女入湯さるる浄幸社よりトア
 ○別所あり寺内小辨財天十五寺を以て安んじけ寺の長の方
 ○羽黒滝とわたり見ある原所より中町大工町を通り森の中小



裏
 見
 瀧

○ 住持院は寺に二山の墓あり、橋門の孰と弘法大師の墓ありて妙光門とありは寺の名物と目所也

○ 阿弥陀堂幸き、法苑二尊佛、甚日の地とあり、又右川の橋成りて、右河原とて少一町あり

○ 慈雲寺神橋より道十二所あり幸きと慈光大師又涅槃の釈迦あり寺の老の古川ありて舟よりりて岩のよ

○ 護摩堂ありは祈合備が剛あり白の岩れく舟不動の石佛、剛琢像とて之、此處の剛の岩不憾給の梵字ありそれより行て左の心と山あり

○ 石像の地花其投とて又右の川端あり

○ 靈庇閣は園より服法施を幸真丹廬山の五老峯青天階の物と金葉、葉ともいひはと風色より揚國忠が沈香木成りて園とて一椀も成、椀の射香乳香と土和にて泥とて一椀も成り四番園ともいひは、庭一と向へ高ふと○赤郡ふより又雲の雲よ

○ 骨堂とある岩切ぬれと法人の骨を葬むそのよ下羅ふこれ持せぬ碑あり、傍小石像の地花より座像六尺許は、後小淵あり慈雲寺の門とてよりけあすて三所あり、寺北境内より三所坪の同河申も、又河岸も青心塔あり、その寺の石の如く、佛とて板木梵字の名号、お書りて、求光とて、竹書とて、幸河り、又川橋頂ともいひ、新と園、赤乃高世とて、雲小紀の高野山の系、傍もと考ゆ、これ雲成りて、山を、奥ふ○素野庵あり○平石とて、十五尊の石あり、こより、尾、は右の方けり、と高れ、山中

○ 二宮と藤原御本金剛童子の堂あり、日どれた、法れよ

○ 金剛山は上化拵の窟とて、入峯山伏の窟あり、秘基、勅りの道場なり、は地へ人考り、ひびは、たつと、ひひ、ゆえ、○松立、寺より、三種も入峯

勅りの前より、越とて、は、色、小見、く、一山、藏、と、み、み、神、の、ま、せ、ぬ、所、かり、祭、ま、さ、れ、ば、ら、り、を、祀、ぐ、一

○中禪寺の道筋神橋より中禪寺まで二里余所より入り田母沼の橋をたゞり

て川向ひと○蓮華石前坂を登ると○地蔵堂あり所の中程よ

○蓮華石よりありは石をむく勝道上人中禪寺へ通るを修り時廻り

のつとまなほは名あり右の方本寺の内よ○十八王子を修りは所

の結守なりこれより三所修りたる右のつとまなほ村よりありこの

村は社名町よりは所よ○業降堂幸き業降堂春日光月老十二神

将十王身衣波女等形又神明宮在蓮華石所より三所修りたり

左の森よ○大日堂幸き石像の大日尊千舞佛安坐は日あり

地蔵堂ありは所の地蔵像の像よ似たり乾子頭は向い水落りて年村

縁よむ坐園の地より偶は地よまよはる修りて風光のらるる又

大日堂の別道より右の方へ道の程二十町許ゆもだ

○裏見瀧

北條町山登りて瀧あり岩洞の頭より飛流して百尺高き岩

若潭小落り岩窟小身をむきめ入る瀧の裏より入るはうんの

瀧とすはるはる

勢射を流し小流もや甚せん初先

は瀑布泉高と十四五間許幅二間修岩窟の洞より飛流し向

の方へ走り幸猛獸の勢ひ小似たり傍より岩くたさ流はりて道を

わねまのけしゆる岩窟の幸ありは飛泉流りて身をふるふとく

名くはよ荒沢不動のまはる小滝天り小飛泉よりせりてもさら

より見る瀧とあり小流より花帯文う庵山の瀧の清く白虹洞より

飲寒剣天小滝とよははありの幸なり

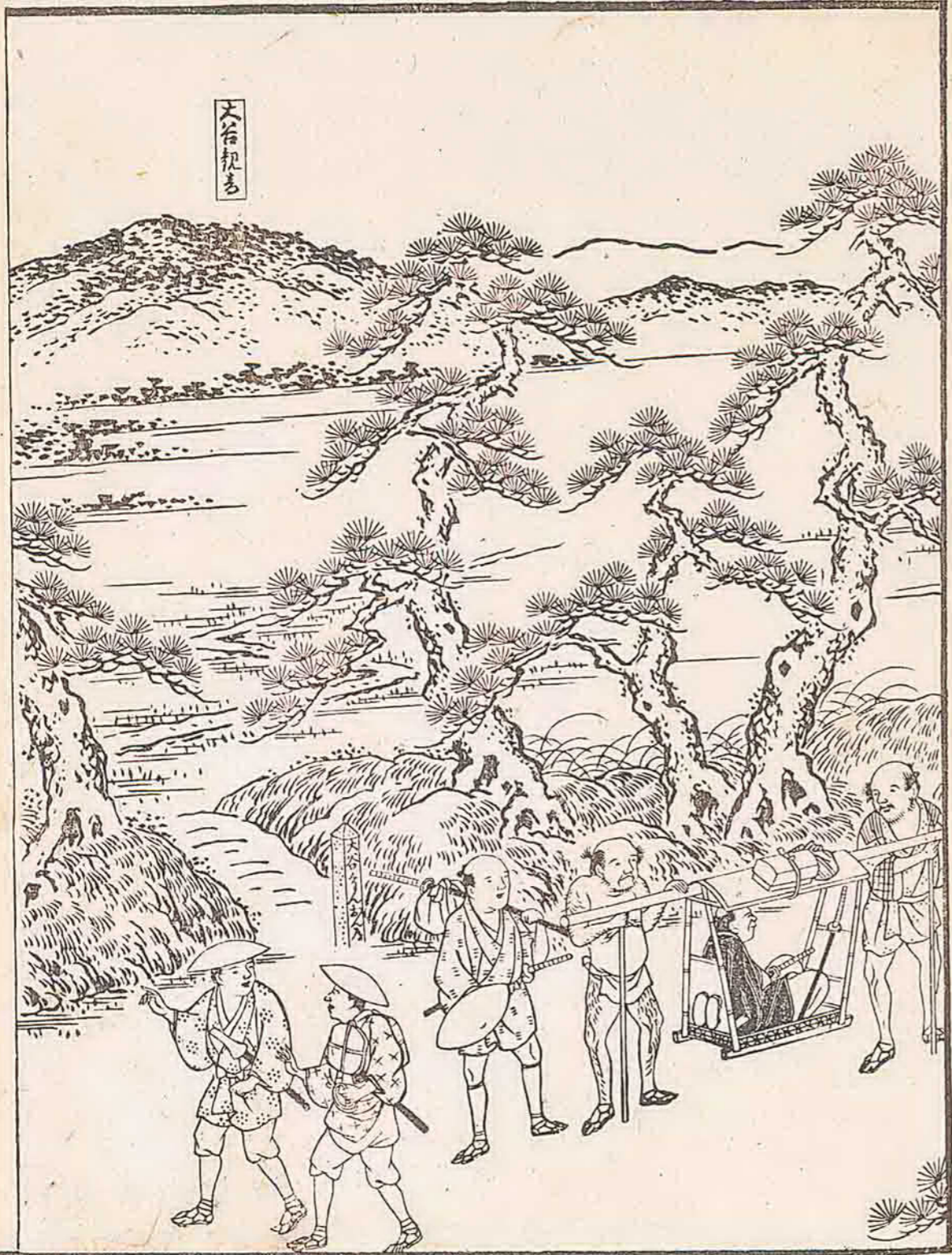
又は側よ小飛泉二ツあり砂子沢橋をわたりて向ふよ○産れ子は是痕

ある石あり左のつとまなほ○鞍馬山○頼山あり砂子沢よりりく

○鳥井原地蔵堂ありそれより信濃村あり

○清瀧寺山神を勝福山より幸き子安地蔵よりなり聖徳太子不動

天谷親吉



日光
公街
光道

野



寺に在りし寺の妙道院の幸寺なり及び妙道院の屋敷に寺に在りし
越年あるを寺内也
○清徳持現は神神を天皇親書の上山今皇親神也崇安佛法旛旗
の神神あり正月二十日の同儀奉祝ありは宮のへ延慶屋屋風紙
まてりふ似てふもふ花束あり○清徳とて子孫あり民村二所は
ゆげ
○親善堂あり奉尊の父子親世音なり勝道上人中禪寺の之本親書の
うら本所をとりて所所へて長七尺許るに中禪寺の女人結界を有
は所よ赤色をとりて人々も屋々結縁ありて之坂東十八番巡礼の札
所ありたのこの道に○三尾村とてつく新山あり所へゆく道にこれあり
五里程あり三尾成道を上列へてせりねりねりねりねりねりねりねりねりねり
三所なりていへ水沢村に姓をさしねりねりねりねりねりねりねりねりねりねり
とてふをうりねりねりねりねり

○馬返は終つり半馬返へさゆ志ありまう又女もこ終るをと終るをうり
こ半を日光を二里ありてこ小溪ありは東橋ありは河原の石段あり
毛巖石ありて歩つてつねに終りて深沢の宗所あり又坂は小池あり
有る種なるよ山路とてしてたは歩つてつねに終るを登つて大平とて
所よつて所

○不動堂石佛之馬返なるを半をたひ小険路にねりては龍石の及八所
ほげりて湯水あり

○神子石を庵とつて所よありてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
牛石とてあり半の程ふ似たりは深草堂ありてはふだてりてこれあり

○折津門は所より下系ありまてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
ま所程あり○折津門は所より下系ありまてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

補陀居士又竺法护とて終りあり
補陀居士中禪寺 三尾路
別所 諸人ともてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

寺をたけし寺の妙道院の幸寺なりけり妙道院の住職は寺にありて
越年あるあり寺内也

○清池持現は神神と天竺梵書の手山小舎毘羅神を崇め佛法擁護
の神神なり正月二十日の同儀奉祝ありけり宮のうへに岩屋風成
まてつふ似てありふ飛泉あり○清池のうへに神あり民村三所程
あり

○親善堂あり奉尊の太子親世音なり勝道上人神禱の之本親善の
うら本堂ありて形跡あり長七尺許る中禪寺の女人結界あり
けり本堂をよと女も長く結縁ありて之坂東十八番巡礼の札
所ありたのこの道なり○三尾村ありて山ありて道にあり
五里程あり三尾村通を上列へてありけり相親善堂あり右のこの道
三所ありて水沢村に往きて坂を登きて石社あり○牛王坂
ありてありてありてあり

○馬返まねり半馬返へてけりありて又女もこねりてありてあり
こねりて日光を二里ありて小澤ありて築橋ありて河原の石段あり
毛巖石ありて歩む一歩にけりて深沢の堂あり又坂に水鏡堂
ありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
新ありてあり

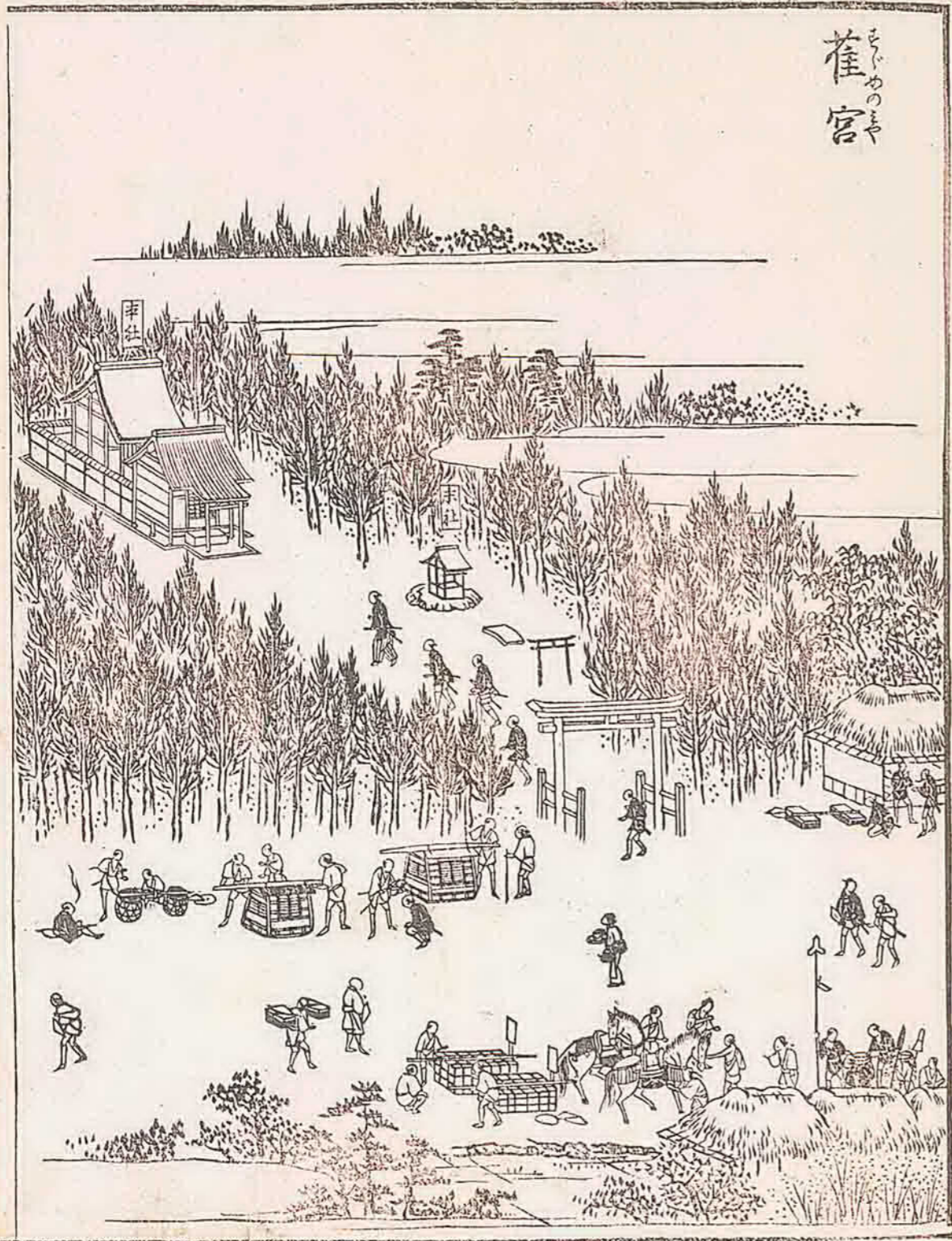
○不動堂石像の馬返ありてこねりてありてありてありてあり
ほざりてありてあり

○神子石大庵ありてありてありてありてありてありてありてあり
○牛石ありてありてありてありてありてありてありてありてあり
ま所程あり○折津門は新ありてありてありてありてありてあり

○又三尾村ありてありてありてありてありてありてありてあり
補陀路山中禪寺 三尾村

別所 諸人ありてありてありてありてありてありてありてありてあり

荏宮 しんみや



雲峯あり雲小天池ありと聖河半流後して温の霜降くと風舞
 雲よ入く環ふと春山の晴ふ作まて傳ありけりあまの清浄心
 と形つて伝傳ふ入ふくと響く
 ○湖水長廿二里幅二里ありひさし一里半坪の所もあり口面糸掛橋竹
 ありと池上筑壘ふととも共築糸印ふと水白く深まだ底知く
 深はれども魚鱗印ふともさむど散くけり山平ふと池ふとあり其外
 中々池早八池ありかた高山の麓おぬ美池水あり半奇異也
 霊地あり○溪の地産ありそ終り本の大なる指を合とたふ
 ○陸橋○不執堂本堂五丈の巨○妙見祠 又夫玉のまもも云ふおぬ
 あり本池龍樹堂の産あり○立本親善堂本堂千手親善堂一丈
 六尺ありびふに天王の像あり園基勝道上人立本と其佳也彫刻
 ありと池東十八表巡禮所あり 結人無性心經心六別所の凡地也よ
 例多れと池あり五丈の像弘法大師の清池又勝道上人の池あり

○御本社 毘廩あり尚社大権現を日光三社の奉社にて奉祀を弥陀
 千子馬頭延曆年中の神造とあり神室を禰悉地經一卷金字
 の法華經一部八葉鏡一面水牛の香爐象牙北單葉一管海龍王乃
 赤衣一領を無畏三藏の菩提子珠救勝道上人神誕生のこと天
 降る陽村其外あり每歲正月四日武射祭とあり社司登山
 して上列赤城の方小むらゝる祭儀とあり赤城と當社の神歌あり
 ちのけ赤城赤城の神の庭あり産まるとは日まぬと此解とあり
 祝詞一くのみ矢と披とありまこれありと赤城の産まけいふおと
 赤城の山に奉社の御がは方に男體山も登ふ道ありは所は碑あり
 弘法大師補陀洛山の記これあり中古滅亡にまづを准之石公辨法
 親王再興し給ふ

○男體山 又黒髪山ともよけ山も登ふ道巍々として積雪多く寒
 風肌も激る ○三社控現山頂ふませ給ふ四十八日のためて毎年七

月七日け峯に登りけ時七月朔日より中禪寺別ありは黄と一七日があひ
 控のりありて登山一三社控ありとも信心をた人奇異の靈跡を
 得るあり男體山道三所せられ

○戒壇堂 奉きん釈迦文殊普賢ありけ所ふ三國の土城細くや奉社
 の御がは方

○根本社 ○摩伽羅天 ○山王社

○三層塔 奉きん五智如来 ○採燈護摩所

湖水のひらふを遙く見わたる

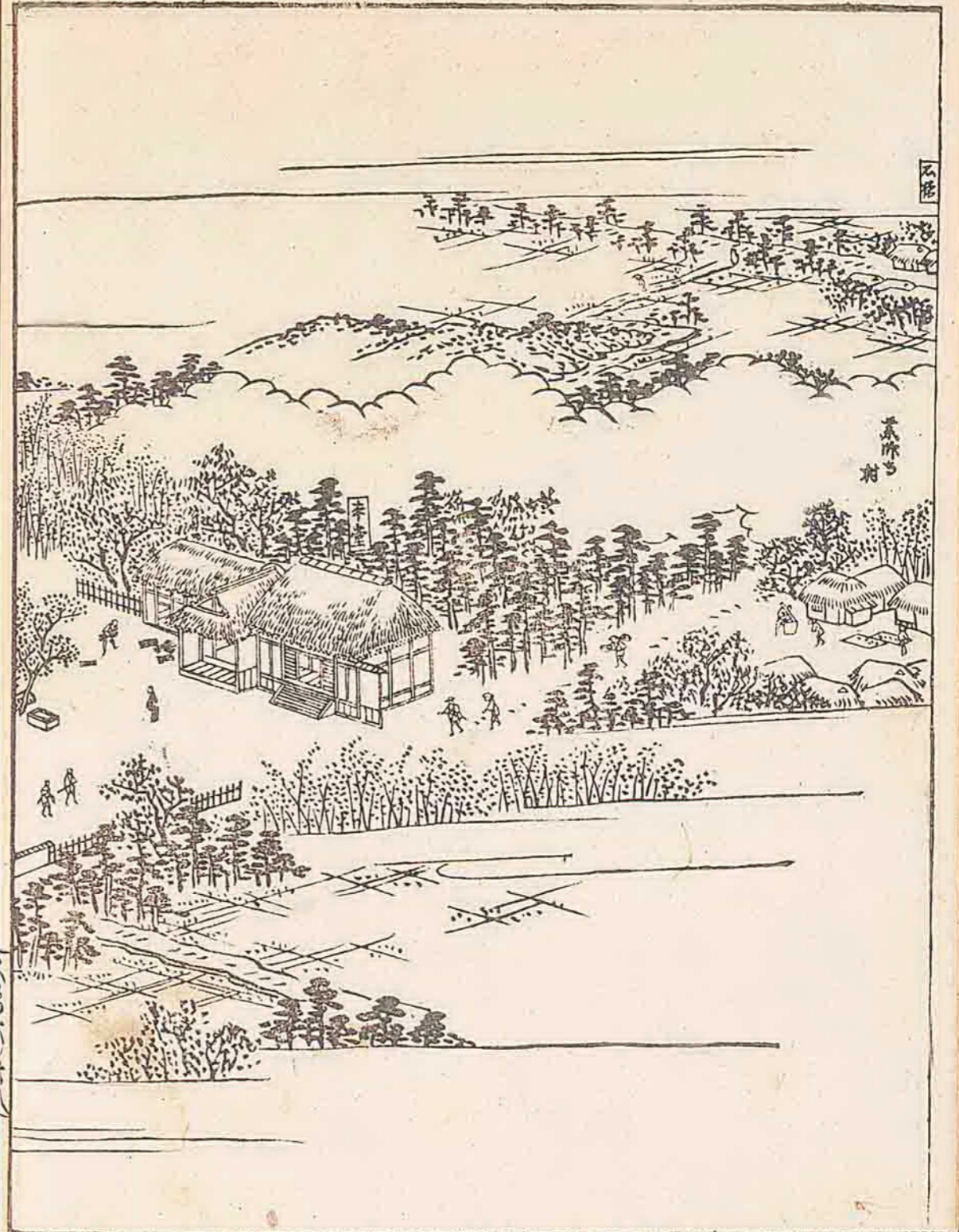
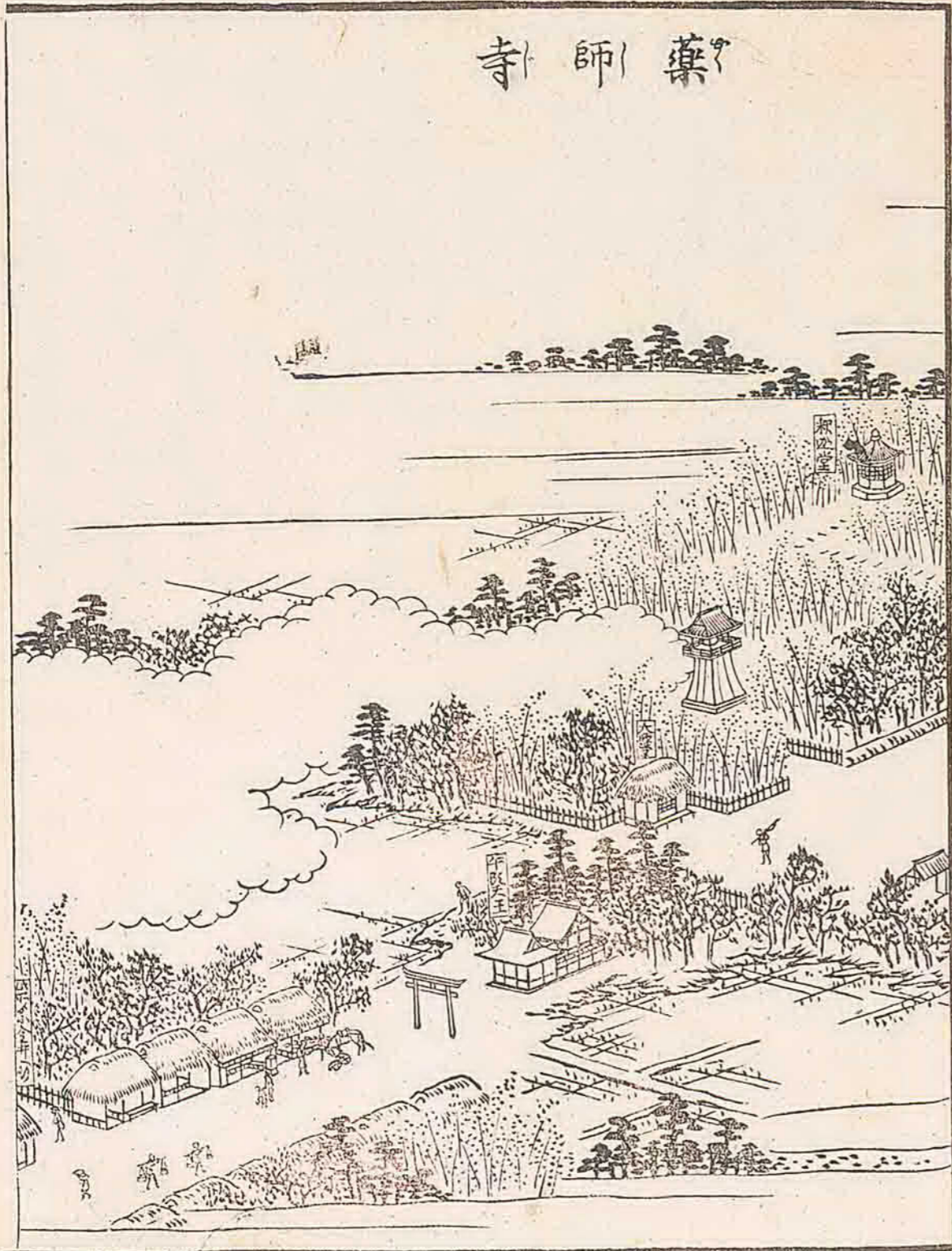
○歌の候 こんひり神軍に討勝たふひけ所ふ神凱陣ありは法軍に
 神達より奉きん紫衣ありは少ふひり名付るとは奉きん古経天香
 弥勒菩薩金剛童子等あり又花供の入奉り伏の宿あり毎年三月
 十二日入奉り四月廿日小坐奉りて供をたは奉きん奉りて其
 難りありとて向ふの奉り小見ゆり

○寺が茅 業降堂 ○日輪寺 五たきりくび小勝道上人の法親あり
 ○上聖傳 湖中にあり一剛竹の傳りて勝道の法骨は傳ふ親より
 ○梵字石 ○龍燈石 ○懷石
 ○千手漢 親言堂ありくび小勝傳所あり 幸き千手親言勝その法地
 かり毎年六月朔日より七月まで道俗一七日の修りて漢定とく
 船舟乗上客々のその像法光る信を堅固にして傳りて其身の利
 禱とあるは時を右の別所にて一夜籠り聖船船舟乗めりて午の別所
 無の傳りたり初めは漢力の風来いそん方あり風速の名地長しは漢地より
 ○風風水 ○紅葉浦 ○海月の池 ○大奇 ○大尻
 ○宇津瀧 ○苜蓿池 ○獅子ヶ淵 ○金が勝 其外名不詳
 ○湯幸の道と別所の茶屋通に漢地一里ほどりて苜蓿池ありて
 湯屋ありて伝りたり
 ○赤沼系 飛場系ともいふは京方二里もあり人むく 青の御神の飛場

ありとらぬるけ色に

○弓張楯 ○幕張山ありてありけ京に勢一姿むくより常小
 下にあるまは日光持現の神ありて使令とら幸毎ふ子城をせ
 その離難いごとくゆくとをり傳りて番のをゆくと終ふけ京を去
 ぎ伝りて五月のけけ聖城をねばあるの花妻此間を寒風小圃られく
 咲き序が漸暖きと傳りて一附小圃く梅も梅も桃もほじも一変り
 交へて盛なる真小仏境にあるゆと懸りたり細け色小
 ○湯淵とらありてこれ城隙見く其ほより城通よりく
 ○湯元へゆく湯守八形ありて三月中旬より九十月の漢中であひの
 店旅舎ありて幸幸自由あり
 ○御新湯 へりてけけめく持現の ○滝湯 ○姥湯 ○登湯
 ○自在湯 ○中湯 ○業降湯 ○河原湯
 初め湯八平湯臺十一あり

藥師寺



け陽の功徳の諸病あり一但一りの湯も積氣と美祖と忌かり
陽産てくぐを壽業ありて入湯の事年毎再祥をたかり又け色の
山の名を

- 大真子
- 小真子
- 大玉山
- 雪山
- 赤倉山
- 鈴嶽
- 太郎嶽
- 月山
- 大真子
- 小真子
- 大玉山
- 雪山
- 赤倉山
- 鈴嶽
- 太郎嶽
- 月山

男體山のゆれく後小あり出河の湯屋山を掃せり形り夏湯屋形り云
杖勅之け前へ事あり裏見繼の道下杖通をゆく

○善叢龍之種を中孫ちの帰路身大尾神子石の所より又六所ゆく
け陽の湖水の流ありけ色の大尾泉にけ樹林繁茂く中より流る
数百の布衣さくぐぐく其尺天をけぬる高冷くして実く小
李自の言小流流直下二十尺是銀河為九天くを流るハこの流

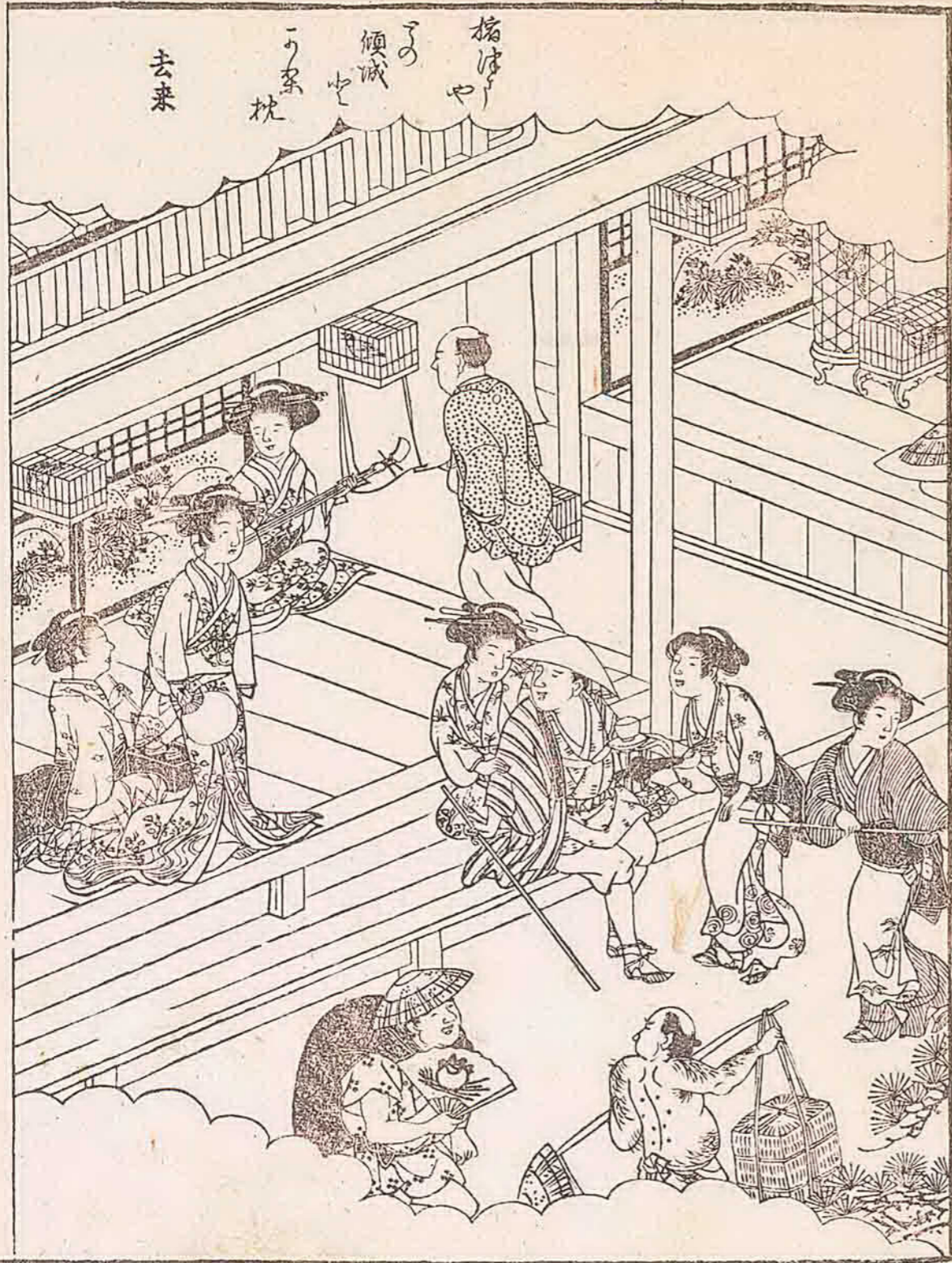
泉母を比せんや其流を降る小目るめれ再びらる事終るけ陽の
やくりの奇樹靈料多くして花るく咲く妻系かりけ前より

○大平不動堂の下(出)

右の條く日光山中の靈境梵宮然りけを持持してめがれたけく五
六日も淨寂もせられ浄くけ一雅一續古事談云下野園二荒山の
嶺本湖水あり度三千町たり清くもめる幸野ひあり樹林に方あめらる
せりども本葉一ツあり小浮せ又魚をけ若く魚放ては別流小あ
まきく物と二荒の権現山嶺小すけ終りて

○日光名物名制教

慈悲心鳥 慈悲心とあり鳥 耶權よりけ一たあり尾長く足直
形るあり又三光あり尾長く是多流ん事たりあり月日星く
とあり尾長鳥と遠里又けらとありあり鳩のたれさありいんこよ
けり家本名物けはたもてけりたもてけりたもてけりたもてけりた



駒高 鶴 山鳥 雉 栗鼠 りぎま 魚母 いづみ 山登り
 魚鱗あり 又州本魚 日光蘭 日光生苔 百合草 石南花
 白根葵 白根人冬 芙蓉 日光萩 千手尾皮 岩松 苔杖
 石斛 岩草 小ひ草 推草 葛藟 山椒活 山椒皮 川海苔
 あけひ 相鬼の子 素麩
 名刺の類
 日光膳 日ぬりもの 曲物 挽物 指物 箸乾 日光漬 其外也

○日光神橋より諸方へ道法

御宮、七町	龍尾、十八町半	清徳、一里
御霊屋、十二町	寂光、一里	裏見滝、一里半
新宮、十町	倉満、十三町	中禅寺、三里
霧降滝、一里半	ひげ池尾、十三町半	湯友山、三里半
中禅寺湯元、六里	川俣湯元、八里半	

足尾、六里 上州妙義山 修香保 榛名山 入り小巻

け足尾の方へ行く 妙義山中で 或十七里餘

○日光より御府へ如る道二筋あり 壬生通を今市より板橋まで 或里

板橋より藤沼(或里二十町)藤沼より素佐原へ 或里素佐原より壬生、

三里十八町 壬生より飯塚へ 或里 飯塚より小山へ 或里半

○宇治より通を日光跡石より今市まで 或里

け同様の列掛多くして所々小民家あり

○今市より大沢まで 二里

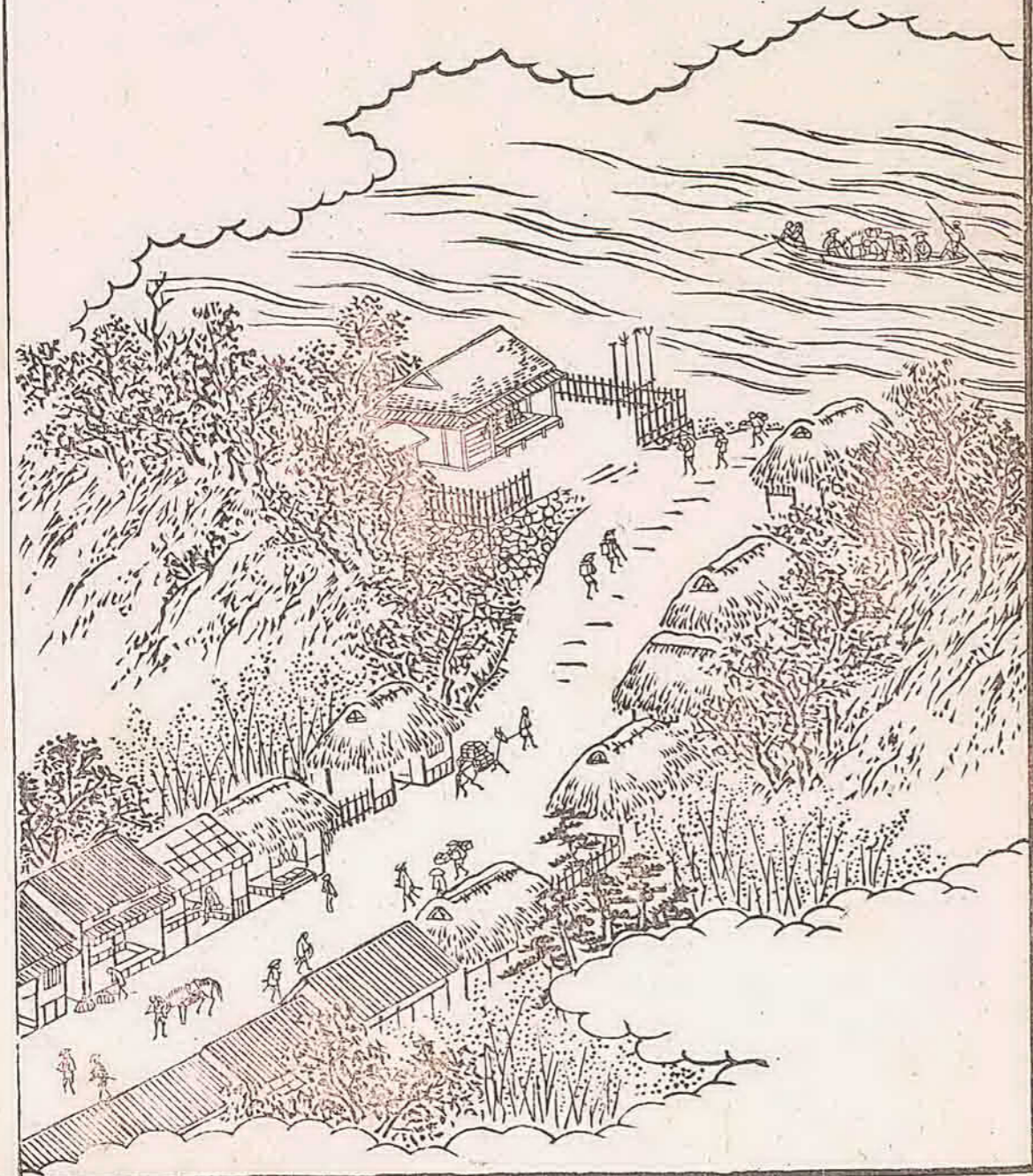
けあひさふたの方よりねんき原山へ 或里 山あり 三月の末まで

雪あり 日光山中より飯塚へ 二里に七ツの里あり 岩下村小尾掛あり

○大沢より徳沢良まで 或里半

大谷親吉より小絶系新ひまきあり

栗橋 園隘



○徳次郎より宇都宮まで七里半

けし街は竹本不自由より人寄りの民衆に成るる家多し地も遠
 と致す獲る其所の人の幼少よりあはしく風土に成るる人々を
 みよふあり物々宇都宮より栗橋まであり日光より宇都宮
 へ至るべしこれより江戸まであり宇都宮より山道を見せし
 より江戸まで七里十六所あり江戸よりけし街まで八里半ありけし
 街より東海道はけし街より合津も東海道はけし街より
 とも多しけし街より都文の塚下廣一町長し徳次郎よりけし街の都
 舎ありしは是より江戸鶴道小別樹の紋多し九里半あり

○荳宮より石橋まで一里半五所

けし街より別樹の紋多し一里半あり

○石橋より小金井まで七里半

石橋より栗橋まで七里半あり栗橋より小丸寺あり即其別樹の

昨寺村とらひしり一ノ下野の薬師寺とて大寺なりしり一慶帝室
字五年初之戒壇法華寺を親世王に建てしり一幸元亨親
書ふ見とくろ九天下に戒壇あり一寺南都の東大寺院前の親
世音寺下野の薬師寺は三箇所小の寺有とけ外小建ふ事公ゆる
されど弓削道鏡も称徳天皇崩御の後左遷せられけ寺の別当小
形一とあり今ハ後の小寺とあり

○醫王山薬師寺

下野國薬師寺
村あり

幸なる薬師如來

長五尺許

開基濫真和尚

親自筆の
画あり

其外什室弘法大師の筆に大般若經三百九十六卷

又普賢像古筆唐画なり

此寺院は一ノ下野の薬師寺に勅願ありしが薬園を建てて藪とあり

形一ノ下野の薬師寺に勅願ありしが薬園を建てて藪とあり

解脱の空門みへは緑境もいひつる

け道より常陸の筑波山を仰ぎ山嶺二つあり高嶺あり富士山に似たり

あり九里あり有都とされしを江戸までの間みけしり外ふしん

武蔵下総下野の國中に山形一みか平原の地あり小坂あり一武蔵

山あり筑波山乃南より北に北の山あり北の山あり其麓を藤

崎なり水戸と打と其小なり下総國と武蔵の山ありあり藤崎と下野

とにたるとなまり常陸の下総の東なり下野と下総の西にあり

け國の記述はなりしに桃李の花甚多し一桃の花と葉内の桃より色濃く

らかりし李の花も赤し一西の方北より李は色まろりて白し一花

乃竹打しふ桃を貴と信幸西國の桃李は花よりばり花のを見とくいふ

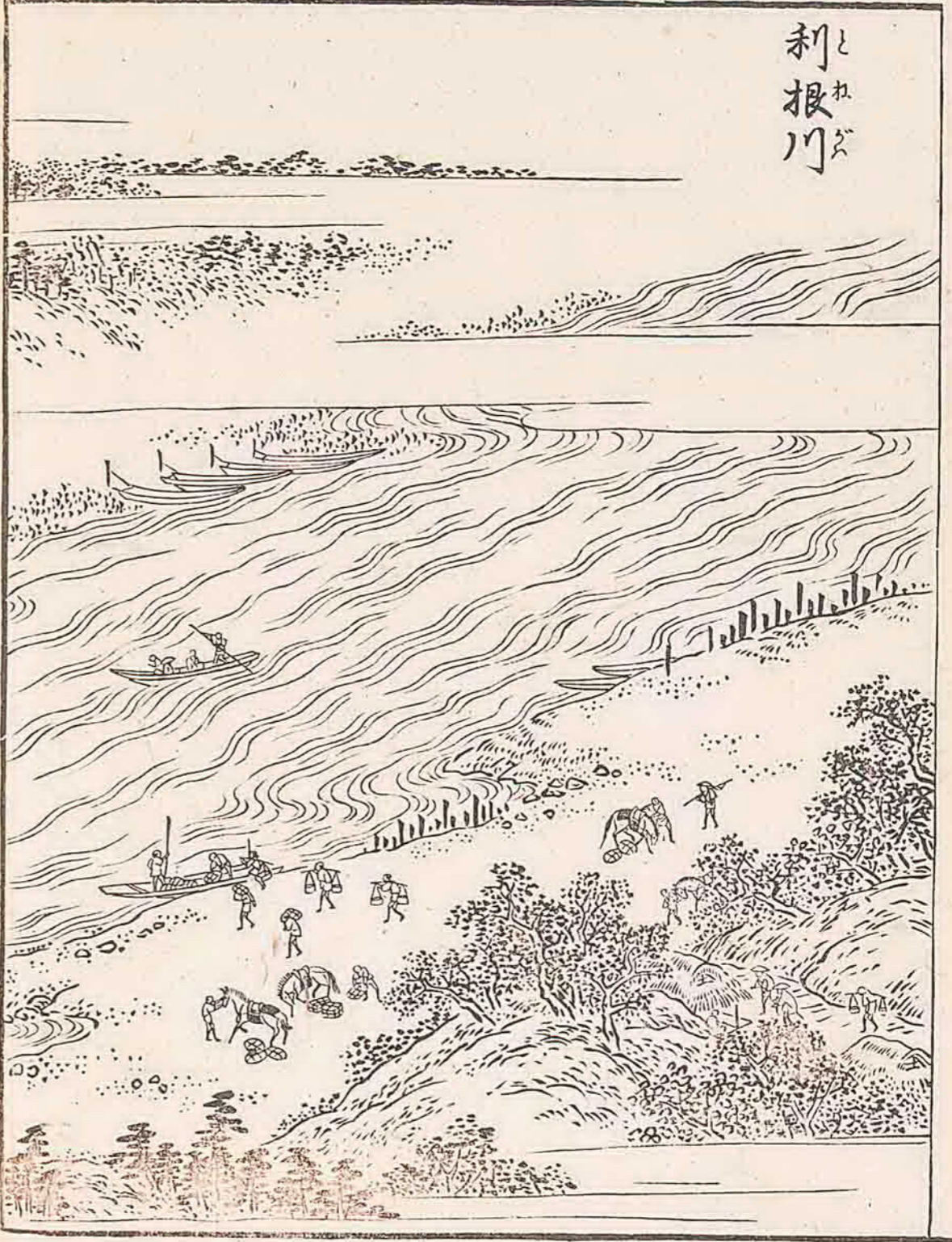
くこひしにけありしは桃李の色もあつたはるる実りと思ひありし

とに急烈は花も赤し一花梅も花よりけりしは色も梅合相蜜梅の

見とくは寒國なりあり

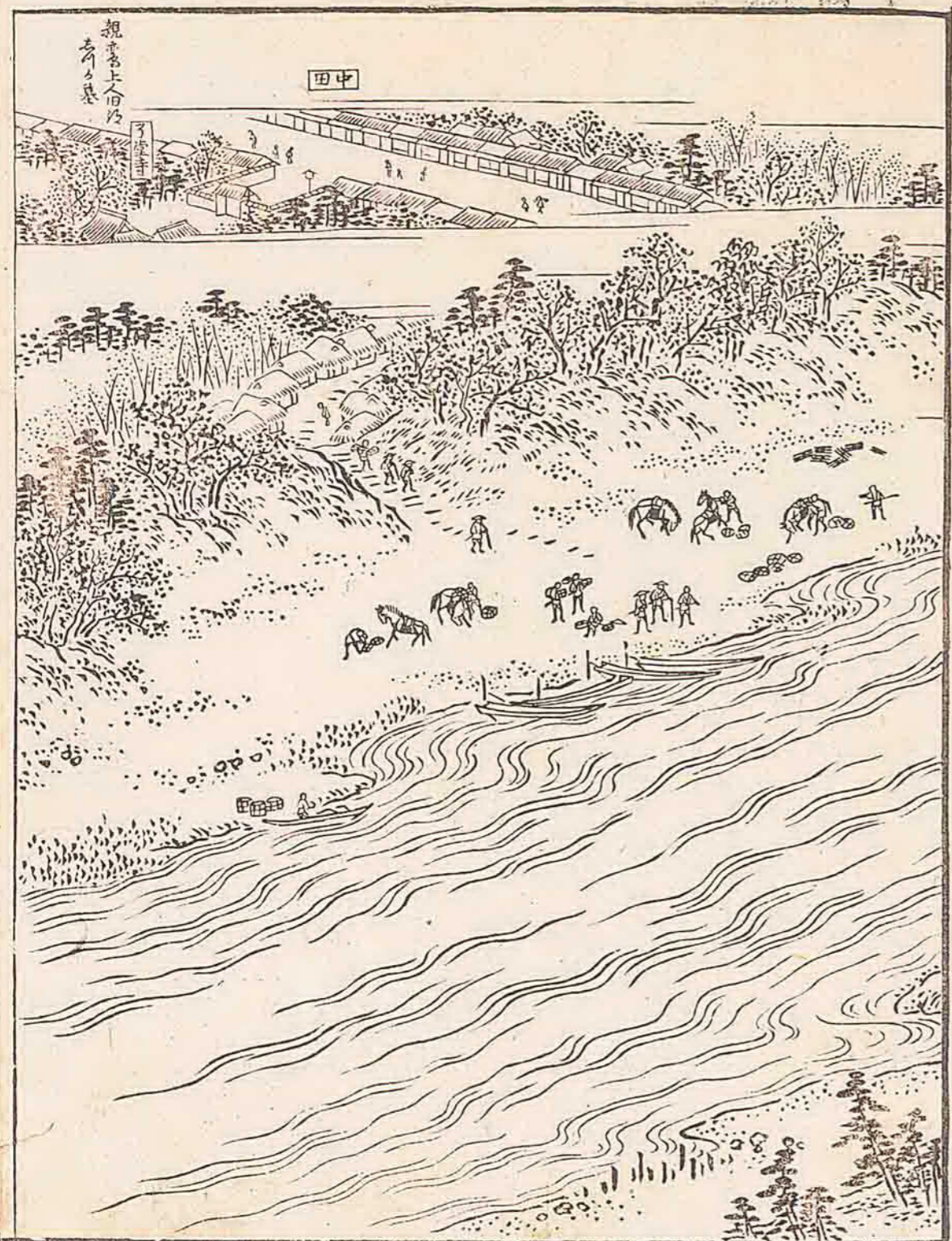
已上貝原氏乃
日光名勝記小出

利根川
とねがわ



田中

親書上人白河
寺の墓



○石橋より小金井まで五里半

小金井の道より半里東に千葉と云所育民材と千葉助が居る

○小金井より新田まで式十九町

○新田より小山まで五里半

○小山より同々田まで五里半六町

小山の町長一町の為古城の跡あり小山割官以承代々小山氏の居

城りしと云はけ田むり一丈半廣りし所と云町中に新々寺院あり

と云り結城と小山のき里半にあり町ありては地と下野常陸

武蔵の二ヶ所に分属しと云古城の跡あり結城氏代々の居城なり今と

水井原を方八千石領し結城安徳と云り一里ありては

玄翁和当那須野の報生ん成所と云り一町の製法衣と水晶の産地あり

中して今あり

小山より小の方の駿野之田畠ありと云り左右とも小菅遠より南小

東西幾里より千葉城志々良城園もあり奥列境まで移のてはの度那之
高園を下毛野と名は布一里と云半と云る

○同々田より那本まで五里三十五町

宇都文城と云はけ同々田と云るけ所と下野と下総の界なり

○那本より右河まで五里

け同松の列樹長

○右河より栗橋まで五里半

右河の町長一土井大炊頭彦七方石領せしが城下の所乃是れ

徳を通ふは城と道より見と云右河の町長と云利根川のつりあり

け河より右河は城と云古河のつり名はと云右河あり許森乃

後と云書り

後白 萬葉 後と云書り 後と云書り 後と云書り 後と云書り 後と云書り

後白 萬葉 後と云書り 後と云書り 後と云書り 後と云書り 後と云書り

○桑橋より幸多中を武里二町

桑橋小園吏所ありは圃より右の方小利根川あり坂東第一の大

河よりうまもけあつた人坂東を即ち上野の奥沼田より流る

上野下野武蔵下総流る隅田川ありて海入

桑橋より幸多中を武里二町より幸多中を武里二町より幸多中を武里二町

○幸多より松戸中を武里半

○松戸より糟登中を武里半

○糟登より越谷中を武里八町

は日之糟登より宿にけ部より子野の方小園宿より新あり久世大和

守彦の居城より五万八千石なりは糟登のよりはさふ不動院邊

園東の山伏の司あり

○越谷より草加中を武里廿八町

○岩槻より越谷より二里ありあり大呂丹後守彦の居城二万石あり

○草加より千住中を武里八町

草加の西北方に鶴沼を度サ武里の流ありは街道より見ると

○千住より江戸日本橋中を武里八町

千住の駅一遊女の店あり宿中本大橋あり

荒川舟架尻末と兩國橋の流ありこれより江戸まで大畧所終り

三谷の町瓜をく都野越町町の所日本橋よりあり荒川の北流あり

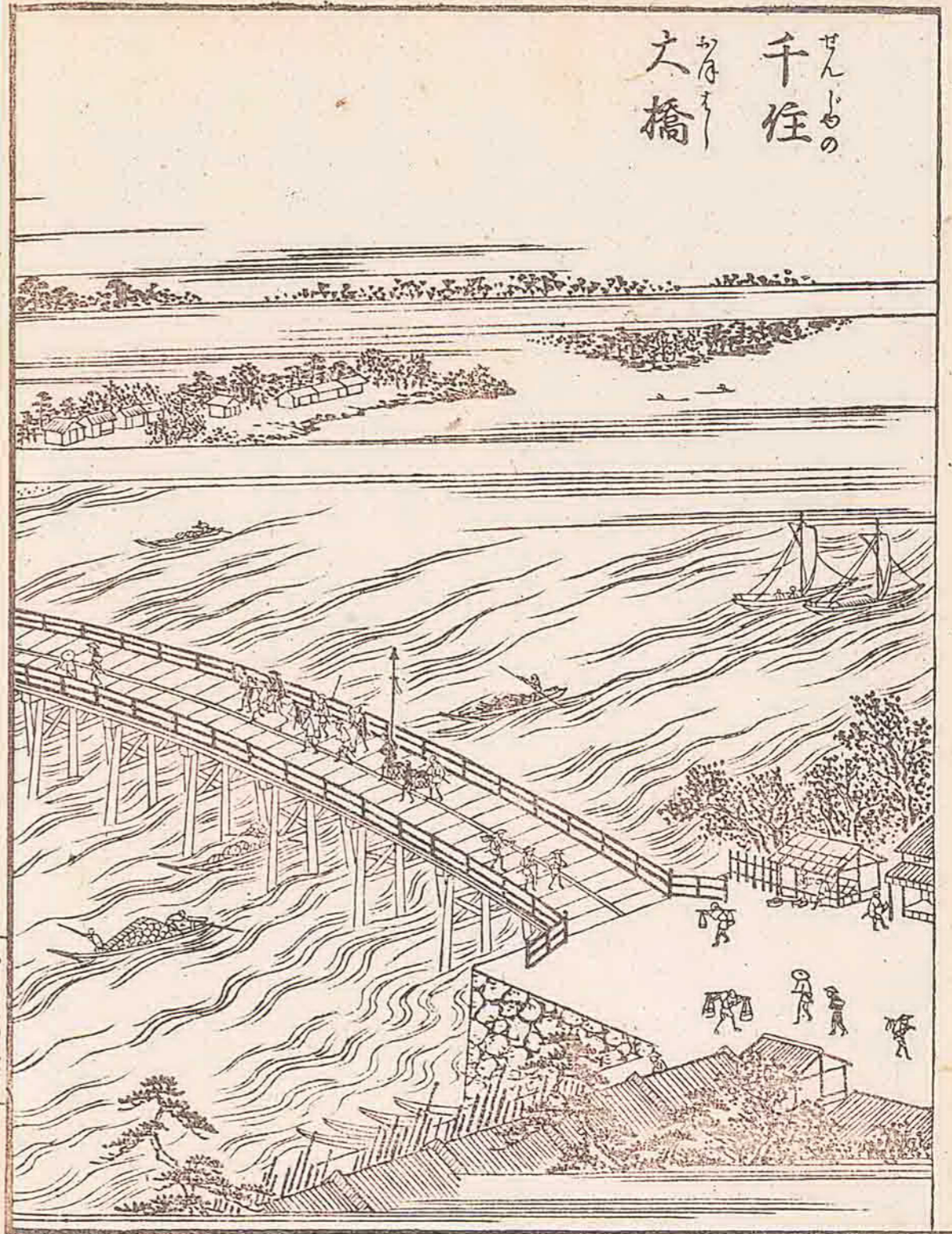
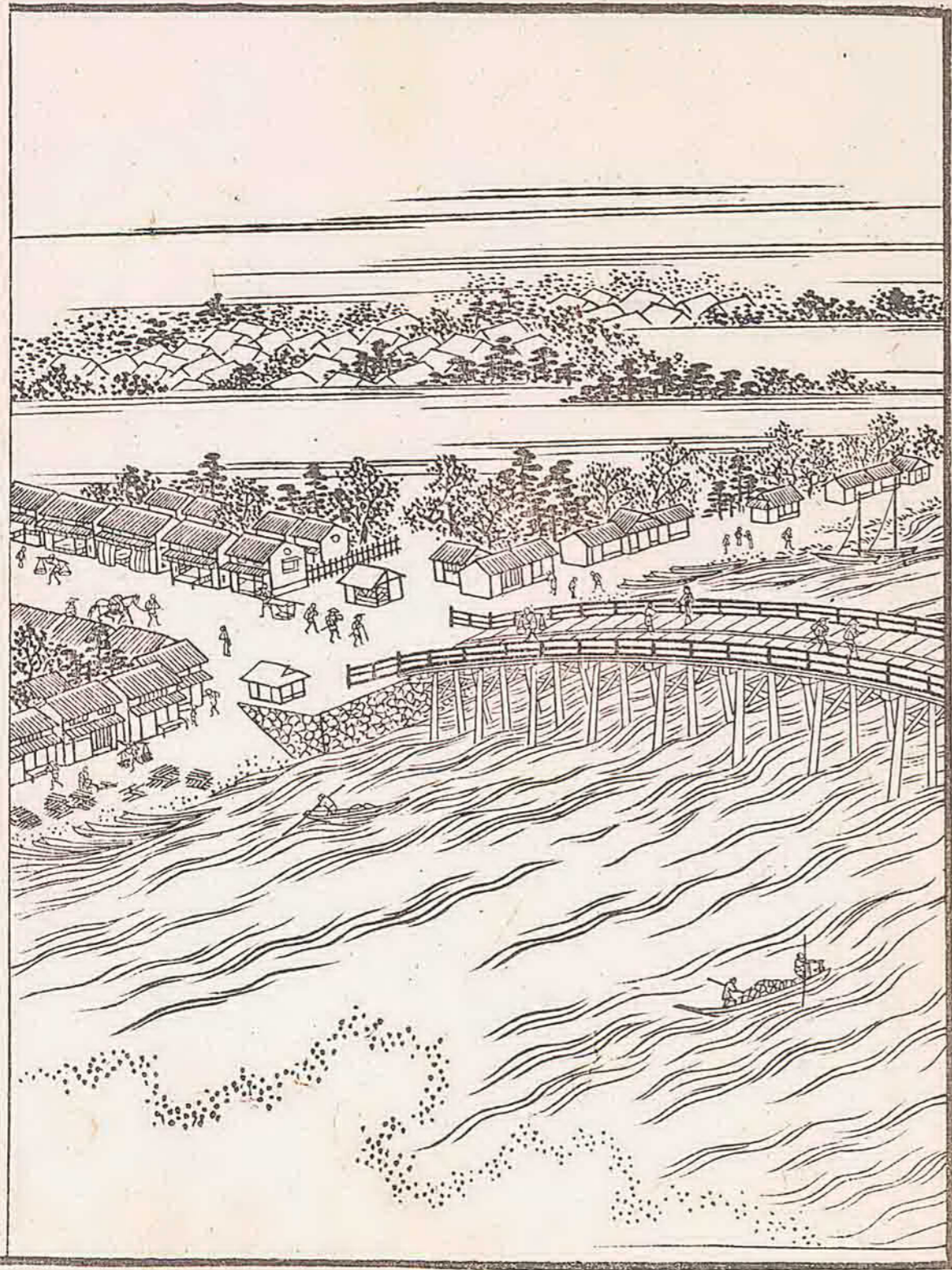
○金龍山法草寺

奉尊親世音 孝徳天皇大化元年本海門勝海始り寺法系創

又奉尊院天慶五年安房守平公推再興をり推后天皇二十

六年三月十八日漁師捨懸成武成より三人法州河小綱法より

怪しむるありて別と見ると親善の号像不思議の心いと



あゝまが葛城のりく桂く飯本草堂と並び安楽にけ所今の二権現く
こ種ちるるてあごさ書くくを記してあゆん書くくひるくくせう右の権現三人
成三社権現と書くと又十社権現と今に葛をりつて多分は成三社権現と天
の社ありこれの園本三辨天の其一より慈世薬師社圖魔堂石像の災
災大黒天と弘法大師の地神明の社五帝権現堂持随身門と門の毎
年正月の十六日あふふせう神傳門の執事海堂の号と又山門の
傍小塔あり後小幡系神と古所の地まの移ありと又明王院あり
姥が依枕の石ありあり辨天の廟ありの姥が娘成をりたり其外子院
二十箇寺あり

○真土山 儀茶山 又侍乳山とも書く山よ小聖堂ありあゆん山下を

○登天町とあり 儀草川も間田川ともあり上を荒川と名づく千代川
こ終より法華見附を入く横山所能町大傳馬町幸町を過く

武蔵野の
室岡小浦より日幸橋小至所

武蔵野

後飛 女らむより家林のむら一社ありはひよりまをむらむらあり

新長今 びう一拜やりのむら乃とそそむらいうむら風のまよむらん

日 りまをまをまむらの武蔵野小のまよりつらふ月ひ

後古 武蔵野 月れ入るに山ありせれくまにあり教志く電

日 むら一社ありまをむらく城まらう今宵そまふ山の徳乃月

日 まふ人よま中らくぬぬありぬのく日むらぬ武蔵野く京

後拾 その日れり程もねんを言ふ小瓜里遠くむら一野乃と

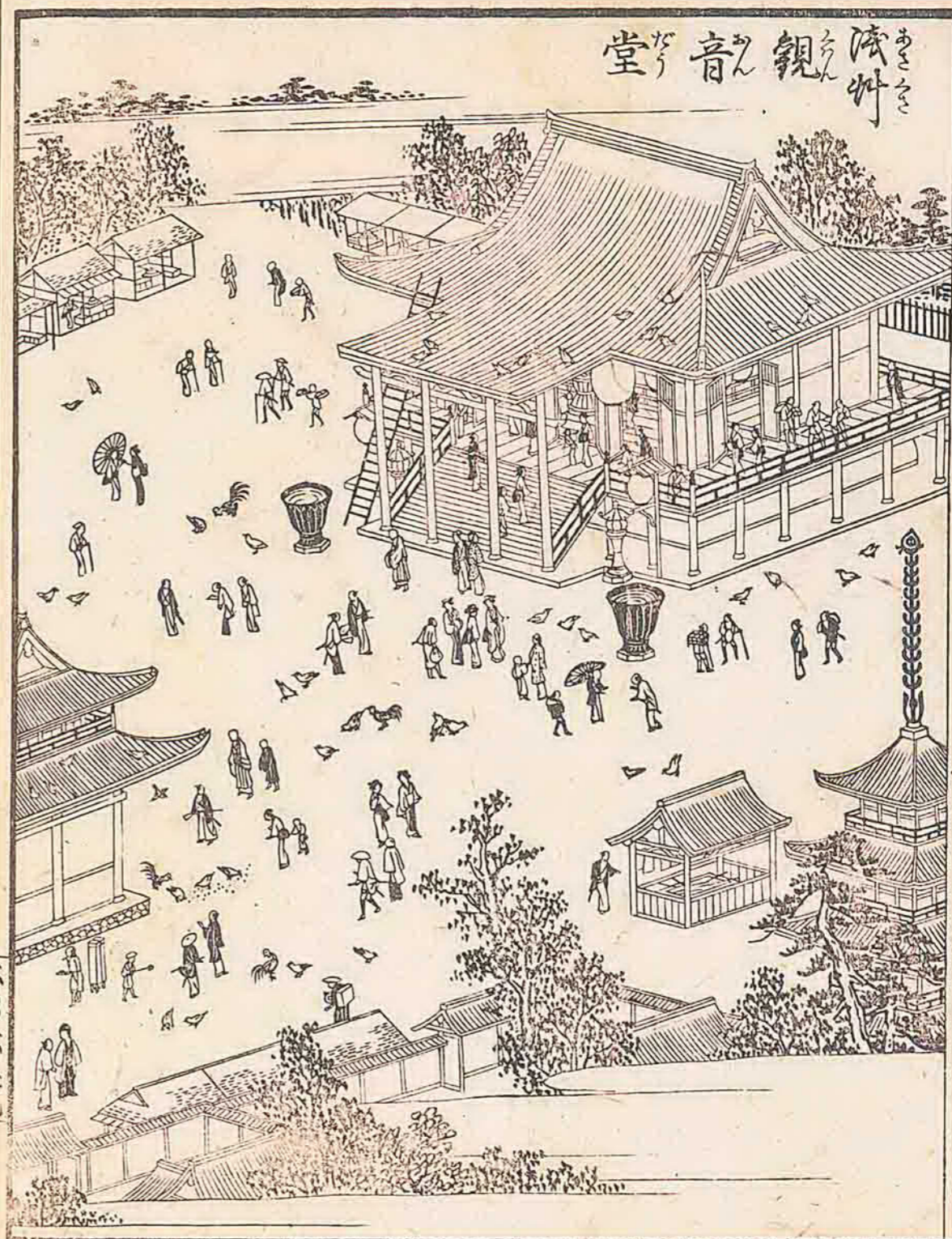
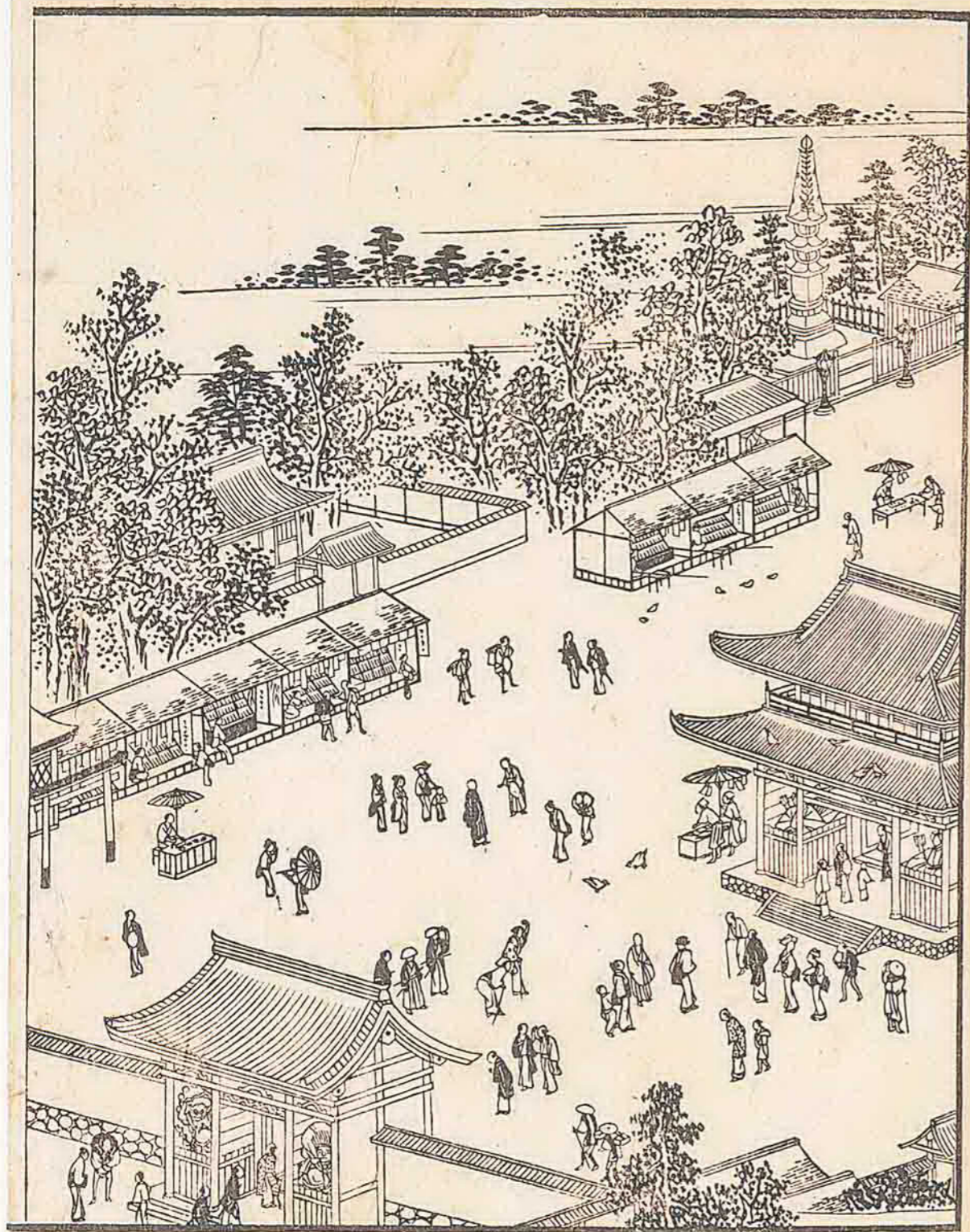
玉葉 海ふはを入るをありむらむらむらむらむらむらむらむら

後千 子親一喜ゆふむらむらむらむらむらむらむらむらむら

日 せし一社ありまをむらむらむらむらむらむらむらむら

後後拾 善まをく色むらむらむらむらむらむらむらむらむら

黄之 通光 抄改 大政大臣 大納言 通方 西三位 如家 後鳥羽院 下野 西三位 如家 法下 欽海 山階入道 左大臣 後二位 家隆



新拾

日

新後拾

日

日

新後拾

續拾

奇林

新十

夫本

霞が關

續三載

日

從二位

家隆

後東の

漢人

定家

藤原

定家

古河門院
作製

死昭

西家

好忠

赤大納言

二世

之子

新古

向丘

新勅

後古

玉系

夫本

堀兼の井

千載

後人

小町

知家

定家

源

後成

跋

蘇翁此稿之記ある乃ちつとまはけりあつたものなり其はあれか
城りあつた其記あるを西子宮とて先く書きてそのに世に
見てもなれぬるに書らるるに好む徳地をわけるものなり後中出
せりあつた記はあつた小波藤原乃ちとて記をそのたりよむせんと
中つれもあつたよとて記をそのたりよむせんと記をそのたりよむ
いふまにて記をそのたりよむせんと記をそのたりよむせんと記を
其去りまれの二は記をそのたりよむせんと記をそのたりよむせ
ちとてあつた書らるるに記をそのたりよむせんと記をそのたりよ
免らあつた教乃ち月日記をそのたりよむせんと記をそのたりよ
とせれ記をそのたりよむせんと記をそのたりよむせんと記をその
れとてあつた記をそのたりよむせんと記をそのたりよむせんと記
りてあつた記をそのたりよむせんと記をそのたりよむせんと記

平安畫工

法橋西邸中 和孝三郎



本巻六十四二

文化二年乙丑三月

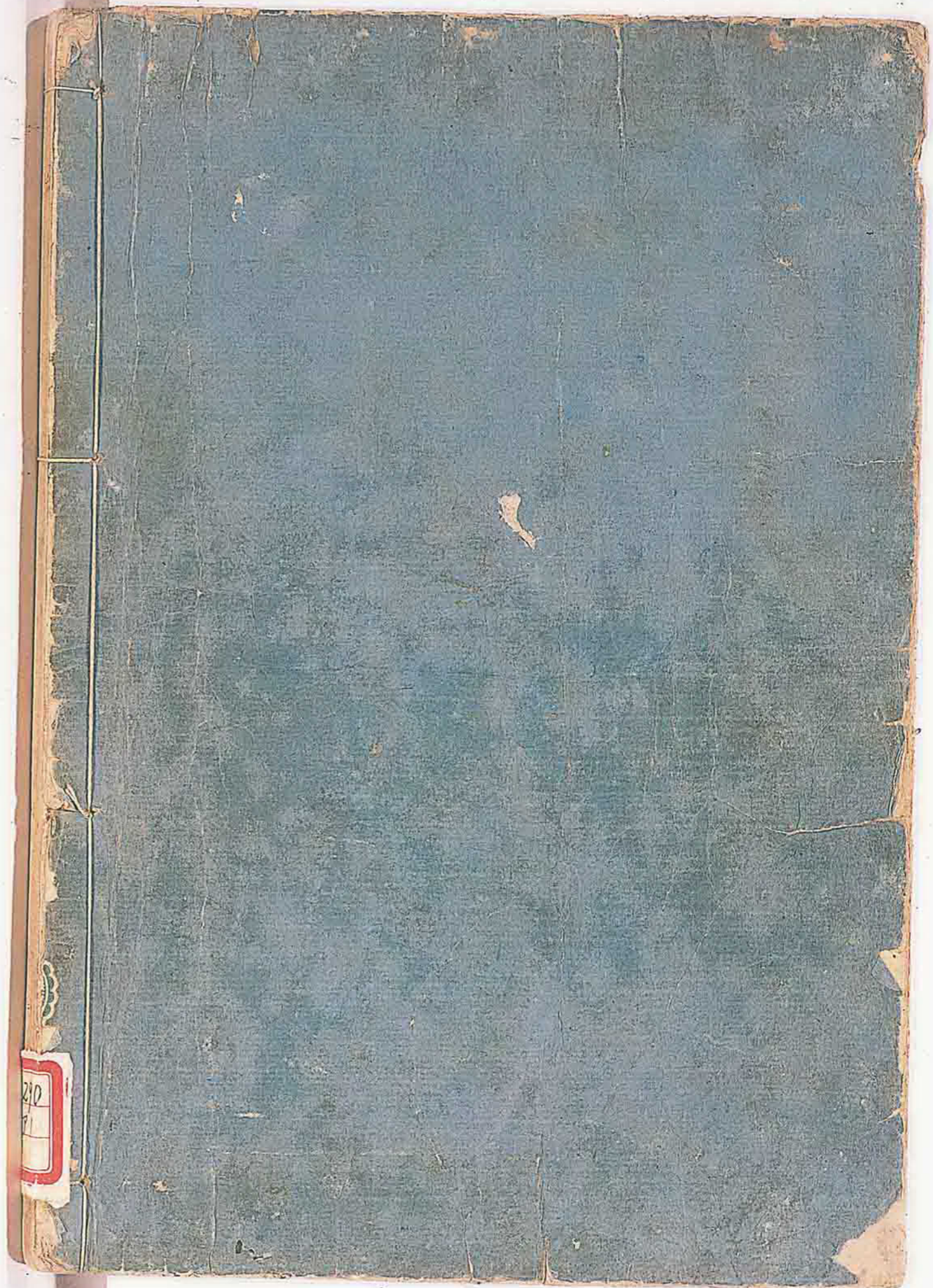
大坂書林



京都書林

- 和泉屋源七
- 河内屋儀助
- 今津屋辰三郎
- 和泉屋久右衛門
- 塩屋喜助
- 小川多左衛門
- 善屋儀兵衛
- 外屋藤兵衛
- 菱屋三郎右衛門
- 越後屋清太郎
- 美濃屋小兵衛
- 西村吉兵衛

432
序
175



210
71